

白石市文化財調査報告書第38集

市内遺跡発掘調査報告書 5

平成22年7月

白石市教育委員会
(宮城県)

例　　言

1. 本書は、宮城県白石市教育委員会が平成21年度に実施した市内遺跡発掘調査事業にかかる調査結果報告である。なお平成21年度の事業は国庫補助事業で総事業費は2,003千円である。
2. 土層の色調表記については「新版標準土色帖」(小山・竹原、1996)を用いた。第1図は国土地理院2万5千分の1白石、白石東部、白石東南部、大河原を複製して使用した。その他は白石市土地情報提供GIS、都市計画図、事業主提供の測量図を用いた。
3. 検出遺構の略号は以下の通りである。
SI: 積穴住居跡 SD: 溝跡 SK: 土坑 P: 柱穴 (ピット)
4. 本事業の調査実施は白石市教育委員会生涯学習課日下和寿、櫻井和人が担当した。報告書本文執筆は櫻井が第3章を、その他を日下が担当した。資料整理は岡部とき子、佐藤一徳、佐藤千夏、片平いずみ、古田佐智子、吉田真理子があたった。資料整理作業は資料整理室(白石市郡山字寿山5-3)で実施した。
5. 発掘調査の実施、報告書作成にあたっては宮城県教育庁文化財保護課、白石市文化財保護委員会をはじめとする次の機関・個人から多大なご協力をいただいた。(敬称略)
土師器・須恵器 石本 弘(白石市文化財保護委員)、菅原祥夫(福島県文化財センター)
佐藤敏幸(東松島市教育委員会)、村田晃一(東北歴史博物館)
櫻井友梓(岩手県教育委員会)
墨書き土器 吉野 武(宮城県多賀城跡調査研究所)
埴輪 藤沢 敦(東北大學埋蔵文化財調査室)
大衆行貴(福島大学大学院行政政策学類)
中近世陶磁器 佐藤 洋(仙台市教育委員会)
写真撮影 君島武史(北上市立埋蔵文化財センター)
小川淳一、細田紀明、佐藤尚、株式会社エコー設備工業、高橋建設株式会社、平間組、
たちばな興業、白石市土地開発公社、各事業主、鉢盛郷上考古学研究会
6. 市内遺跡発掘調査報告書4の訂正
例言10行目、知→智、6頁15行目、高坏→坏、15頁下から8行目、遺跡跡→遺跡、写真図版3と4の写真が逆、写真図版4の5、(第6図4)→(第6図3)、同4の6(第6図2)→(第6図1)、写真図版5の2(第20図4)→(第20図6)、同5の4(第20図6)→(第20図4)
7. 本事業の記録及び出土品は、白石市教育委員会生涯学習課が保管しており、依頼に応じて公開、貸出を行っている。

目　　次

例　　言	1
第1章 平成21年度における埋蔵文化財調査概要	2
第2章 平成21年度における発掘調査結果	4
第3章 歴史資料からみた大畠遺跡周辺	27
第4章 まとめ	30
引用参考文献	31
届　　出　一　覧	32
抄　　録	40
写　　真　図　版	41

第1章 平成21年度における埋蔵文化財調査概要

2008年秋のリーマンショックに始まる世界同時不況の波は、東北地方の小都市である白石市にも押し寄せ、個人住宅建設をはじめとして各種事業に影を落とした。埋蔵文化財包蔵地における住宅建設では協議があったものの、着工を見送るケースが相次いだ。また、昭和51年に着工した公共下水道建設事業は主要地区の工事が完了したことから、公共工事も減少している。

平成21年度における確認調査等箇所は第1表にまとめた。今年度では発掘調査（事前調査）1件、確認調査7件、工事立会15件、試掘調査3件となっている。

農地転用、地下の埋蔵文化財に影響がある各種事業に関しては、事前に確認調査及び発掘調査を実施している。掘削深度が浅い等の理由で埋蔵文化財に影響が少ない、過去の工事によって埋蔵文化財が既に破壊された箇所と考えられた箇所については工事立会としている。

平成21年度の確認調査及び工事立会のうち、14件では遺構、遺物とも発見されなかった。遺構が確認された箇所は全て、遺構面に掘削が及ばない工事を実施することになっており、確認調査で終了となっている。また、地形的な特徴等をふまえ、埋蔵文化財が発見される可能性のある箇所においては任意の試掘調査等を実施している。

大畠遺跡地点①では、表土から須恵器片1点が出土した。調査実施段階になって明らかになったことであるが、この箇所は以前に確認調査を実施した所であることが判明した。今回のトレンチは以前のトレンチと重複しなかったものの、過去の調查履歴整理の必要性を痛感することとなった。

志在家遺跡では大規模な資材置場建設計画があった。確認調査を実施した結果、事業地内の3箇所で遺構、遺物が発見された。遺構が発見された箇所は、事業主の協力が得られ、設計を一部見直すことによって、事前調査はなしとなった。なお、遺構に影響のない工事となったが、表土等から遺物の出土が予想されたことから、任意の工事立会を実施し、継続中である。

三島館跡では現地確認時に須恵器等を表探し、立会中には土師器1点が発見されたが、崩落土に含まれるものであった。地蔵院館跡は現地確認時に土師器を探取したが、立会中は遺構、遺物の発見はなかった。鹿巣古墳群12号墳では、植樹箇所とは別地点において、倒木により土層が露出した箇所から円筒埴輪片を採取した。大黒天遺跡では第1層から土師器、陶器が出土した。23番の大畠遺跡では遺構、遺物が発見されたが、工事立会が引き続き実施されることから報告は次年度にまとめて行うこととした。

人畠遺跡調査に関連するが、白石市教育委員会では各種開発事業に伴う確認調査を多数実施してきたが、発掘調査報告書としてまとめられたものが少なく、過去において、どの箇所を発掘調査したのかが、把握しづらい状況が長年続いた課題となっていた。そこで、文書綴りが整備されている概ね平成7年度以降の届出、調査結果概要を付表としてまとめ、データを整備し、調査箇所の重複を未然に防ぐこととした。

遺跡地図整備では福岡深谷地区の訂正作業を継続した。市街地から離れた遺跡については、届出なしで土木工事が行われるケースがあることから隨時、現地確認、遺物の表探しを行った。新規登録遺跡は0件であった。



番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	下ノ神明遺跡	散布地	縄文末、平安	9	假御寺跡	集落	古墳後～平安
2	田上遺跡	散布地	縄文前、中	10	大瀬遺跡	散布地、官衙	弥生～中世
3	菅生古窯跡	集落	縄文前～後、弥生	11	本郷遺跡	散布地	古代
4	鈴鹿原敷跡	散布地	古墳時代	12	梅谷遺跡	集落	弥生、古墳
5	中居敷陣屋跡	津屋	近世	13	鹿島塙郡	前方後円墳、円墳	古墳、古代
6	月心院遺跡	散布地、寺院	古代、近世	14	谷津山遺跡	散布地	縄文～古代
7	弘陀内遺跡	散布地	弥生～平安	15	古石垣里聚落推定地	水口跡	古代、中世
8	柿井内遺跡	散布地	奈良、平安	16	和尚堂遺跡	散布地	縄文後、弥生～中世

第1図 遺跡地図

No.	遺跡名	遺跡番号	対応内容	所 在 地	調査原因	調査期間
1	大畠遺跡	02265	稚跡調査	宇多大畠 136番地 1	店舗建設	平成 21年 4月 13日
2	鹿島古墳群 29号墳	02005	工事立会	鹿島字奈ノ入山 2.6ほか	稚跡調査埋め戻し	平成 21年 4月 10日～4月 14日
3	猪内宜内遺跡	02430	発掘調査	字猪内宜内 99番地 6ほか	個人住宅建設	平成 21年 4月 14日～5月 2日
4	白石条尾削除指定地	02400	工事立会	福岡西四丁目 4.1ほか	駐車場建設	平成 21年 5月 27日～6月 17日
5	新館跡	02165	工事立会	福岡町 1-21 12.9	古跡保護対策工事	平成 21年 6月 1日～6月 17日
6	志在家遺跡	02359	稚跡調査	大篠川三丁字志家輪 18ほか	資材貯蔵場等建設	平成 21年 6月 9日～8月 3日
7	三島細跡	02261	工事立会	大篠川三丁字志家輪 112ほか	排水管工事	平成 21年 6月 22日～6月 24日
8	箱前山遺跡	02127	工事立会	福岡市箱前山 1番 2	駐車場建設	平成 21年 7月 3日～7月 10日
9	観音崎遺跡	02322	工事立会	福山字観音崎 231.1ほか	個人住宅建設	平成 21年 6月 24日～6月 26日
10	島駒跡	02261	工事立会	大篠川三丁字坂坂 112ほか	個人住宅建設	平成 21年 7月 21日
11	地蔵院跡	02172	工事立会	福岡市桜川字桜川 53.4ほか	新幹線対策強工事	平成 21年 7月 24日～平成 22年 2月 24日
12	鹿島古墳群 12号墳	02005	工事立会	鹿島字木本山 41.6ほか	新闢	平成 21年 8月 4日
13	志在家遺跡	02359	工事立会	大篠川二丁字志家輪 18ほか	資材貯蔵場等建設	平成 21年 10月 22日～稚跡中
14	松田遺跡調査地	02094	工事調査	福岡深谷字南浦ほか	工事用地造成	平成 21年 11月 12日
15	大塚遺跡	02262	稚跡調査	宇多大塚 46.1	個人住宅建設	平成 21年 11月 13日
16	大塚遺跡	02262	稚跡調査	宇多大塚 46.2	宅地造成	平成 21年 11月 13日
17	新館跡	02165	工事立会	南町一丁目 24.19、24-20	貨物運搬	平成 22年 1月 12日～1月 20日
18	白石城跡	02197	工事立会	福岡町 55.15	地質ボーリング調査	平成 22年 2月 9日～2月 16日
19	地蔵院跡	02172	工事立会	福岡市桜川字桜川 61.1ほか	新幹線騒音対策工事	平成 22年 2月 24日～騒音中
20	大畠遺跡	02265	工事立会	福山字志家輪 28.1	個人住宅建設	平成 22年 2月 26日～3月 11日
21	大黒天遺跡	02077	稚跡調査	福岡深谷字大黒天 47	倉庫建設	平成 22年 2月 23日
22	大塚遺跡	02262	工事立会	寺ノ原駒前 25.6	中央公園ワーラーステラム	平成 22年 2月 23日～3月 9日
23	大塚遺跡	02262	稚跡調査	宇多大塚 88	宅地造成	平成 22年 3月 8日
24	砂押造跡標示地	02397	工事調査	大篠川二丁字佐野道 152ほか	埋蔵文化財の有無確認	平成 22年 3月 18日～騒音中
25	松田遺跡標示地	02094	稚跡調査	福岡深谷字松田 8.2ほか	山道修改	平成 22年 3月 30日
26	松田遺跡	02094	稚跡調査	福岡深谷字松田 81.2	個人住宅建設	平成 22年 3月 31日

第1表 平成 21年度 埋蔵文化財調査一覧

第2章 平成21年度における発掘調査結果

遺構が発見された調査を中心に記載する。なお、中近世陶磁器の詳細は原則として一覧表に一括掲載、当該遺跡及び分布調査の関連資料も掲載した。

1 案室内遺跡

地 点 ①

県遺跡番号 02430

遺 跡 略 号 NG

所 在 地 白石市字案内 99-6、99-8、101-1 の一部、103-1 の一部

調 査 原 因 個人住宅建設

調 査 期 日 平成21年4月14日～5月2日

調 査 面 積 327.74m² (掘削面積 90m²)

遺跡はJR東日本東北本線白石駅から北へ約1kmの位置にあり、現況は畠地であるが、宅地化が進んでいる。

今回の確認調査箇所は平成20年5月～6月に確認調査、発掘調査が実施された箇所に隣接する箇所である。東隣の発掘調査箇所では重複して9世紀代の堅穴住居跡が4棟発見された。土師器、須恵器、墨書き器、会津大戸産長頸瓶が出土している。

今回の住宅建築で、深さ4mを越えるセメントソイル工法が実施されることになったため、確認調査を実施し、埋蔵文化財が確認されたことから発掘調査を実施した。

今回、堅穴住居跡2棟、堅穴状遺構1基、ピット1基が発見された。堅穴住居跡の番号は昨年度調査からの連番とした。遺構確認面は第5層上面である。遺構確認面からは比較的多くの土器が出土した。鉄器1点も発見された。第1～2層では近世陶磁器も出土した。遺物総量は昨年度調査区よりも少なかつた。

SI05 堅穴住居跡〔位置、重複〕調査区の北端に位置している。重複はない。

〔平面形、規模〕南北6m以上、東西4.2～4.6mで、カマドは短く0.6mほどである。北半分は調査区外となっている。やや歪みを持つが、長方形状を呈している。昨年度トレンチにおける調査結果からすると、南北は7m以下の長さになりそうである。

〔埋土、壁、床面〕床面は平坦である。埋土は0.32～0.42mで、2層存在する。壁はやや急に立ち上がる。

〔カマド〕東側に付いている。煙道は短く、焼土や炭化物はなく、カマド袖も確認できなかった。埋土は約0.14cmである。

〔出土遺物〕土師器、須恵器が出土したが、量は多くない。南東隅と北東から鉄器が計2点発見されている。鉄滓(27.5g)、石英破片(15.2g)も出土している。調査区北端では土製支脚も出土している。

SI06 堅穴住居跡〔重複〕調査区の南西隅で発見された。他の遺構との重複はない。

〔平面形、規模〕方形を呈すると思われる。一边が3m以上の規模である。南半分ほどは調査区外である。

〔埋土、壁、床面〕埋土は3層で、層厚は0.3mである。壁はやや急に立ち上がっている。床面はほ

は平坦である。北東隅には長軸 0.4m の焼土があり、住居の掘り込み面に堆積していた。焼土中から土師器壺 1 点が出土した（第 6 図 5）。

〔カマド〕 北東側に長さ 2m ほどの煙道が付いているが、屈曲している。埋土は 0.04 ~ 0.1m である。

〔出土遺物〕 土師器、須恵器、磨石片、鉄滓（9.1g）が出土している。

SX01 壁穴状遺構〔重複〕 重複関係はない。調査区南東隅近くで発見された。

〔平面形、規模〕 南北 3.2m、東西 2.7m の規模で、南側に突出部がある五角形を呈している。

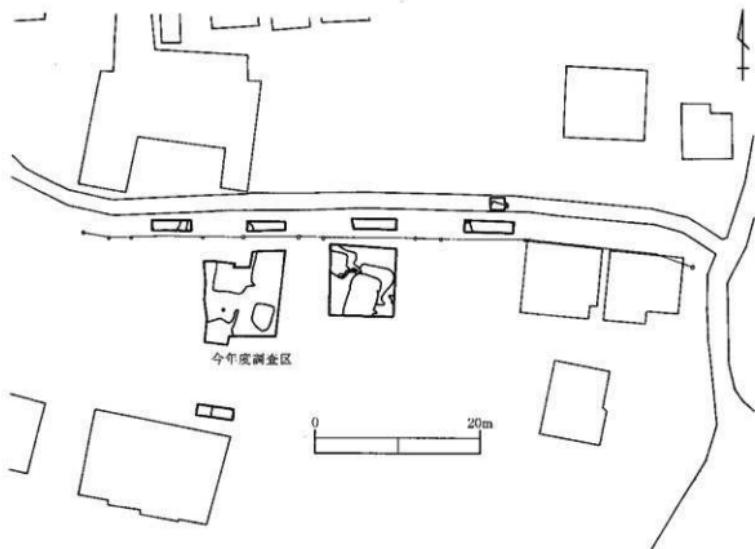
〔埋土、壁、床面〕 埋土は 2 層で、層厚は 0.2m である。壁はやや急に立ち上がっている。埋土 1 の遺物が圧倒的に多く、検出面では焼土、炭化物が多く見られた。

〔出土遺物〕 土師器、須恵器、鉄器 1 点、鉄滓（23.2g、写真図版 4）、自然礫が出土している。

ピット 1〔重複〕 SI06 の北側で発見された。重複はない。

〔平面形、規模〕 直径 0.4m 程の円形を呈している。

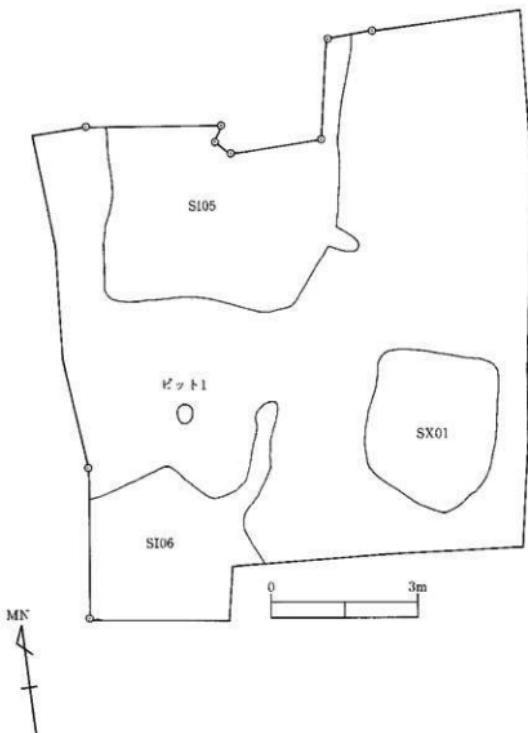
〔埋土、壁、床面〕 深さは 0.26m で、底面は長楕円形である。埋土 1 から土器が出土している。壁は急に立ち上がっている。



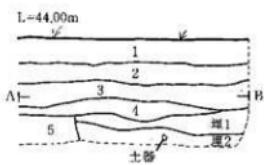
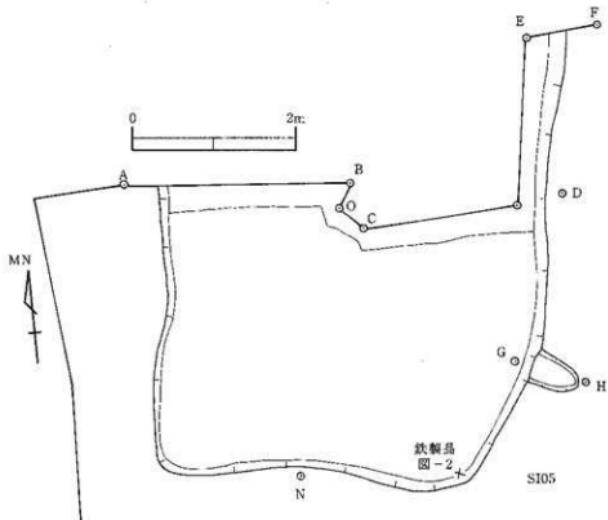
第 2 図 栃室内遺跡調査区全体図 (S=1/600)

埋土は住居跡とピットが褐色系統砂であるが、堅穴状遺構は焼上、炭化物を多く含み、住居跡と異なっていた。土師器、須恵器は各遺構から発見されたが、SX01 の遺物が最も多かった。出土した上器から遺構の年代は 9 世紀中葉～後葉と考えられる。

昨年度の調査区と併せて考えると、SI03 及び SI04 と SI05 及び SX01 の東辺と西辺がそれぞれ平行して擴う配置になっていることが指摘できる。同時期の遺構と考えてよいと思われる。



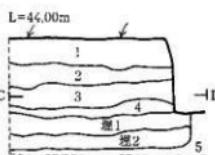
第3図 栋室内遺跡遺構配置図 (S=1/100)



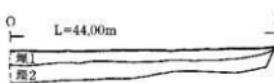
北壁セクション図

A-B
1:表上、10YR4/1褐色灰質シルト
2:10YR5/2灰褐色灰砂シルト
3:10YR5/6黄褐色シルト質砂
2及び3の小ブロックを多く含む

4:10YR6/1褐色灰質シルト、端褐と灰褐色の混土
酸化鉄分が多く混じる
5:10YR6/2灰褐色シルト、6よりも若干灰色味が強い

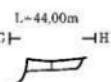


C-D, E-F
層1:10YR6/2灰褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、土細胞を含む
層2:10YR5/2灰褐色シルト質砂、炭化物を若干含む、土細胞を含む
層3:5YR6/3オリーブ灰砂、遺物を含まない



SI05断面図

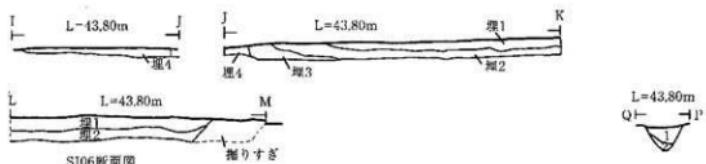
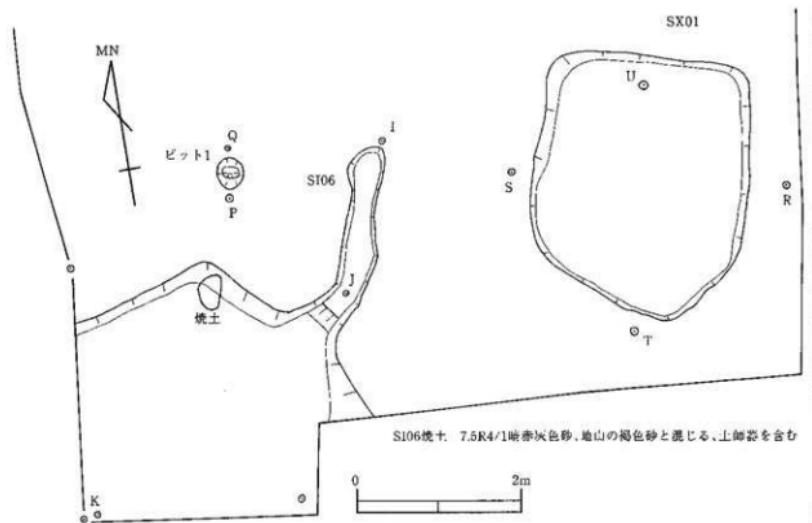
O-N
1:埋土 1. 10YR5/3にぼい黄褐色砂質シルト、灰土
炭化物を若干含む
2:埋土 2. 10YR6/3にぼい黄褐色砂質シルト、灰土
炭化物を若干含む



SI05カマド断面図

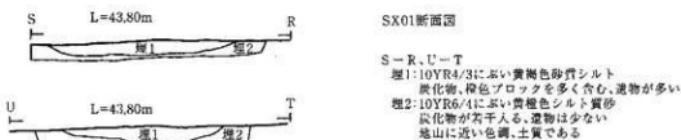
G-H
1:10YR4/2灰褐色シルト質砂、炭化物が若干入る

第4図 S105 平面図、断面図 (S=1/60)



J - K
層1:10YR6/4に赤い黄褐色シルト質砂、灰褐色ブロックを含む、炭化物が少量まじる
層2:10YR6/3に赤い黄褐色シルト質砂、灰褐色ブロックを含む、炭化物が少量まじる
層3:10YR6/3に赤い黄褐色シルト質砂、1、2よりも黒い

P - Q
1:土器含む、10YR4/3に赤い黄褐色シルト質砂、粒子状の炭化物を若干含む
2:10YR6/4に赤い黄褐色シルト質砂、2層が1層よりよりも明るい、この層は地山の褐色砂と1層の混土である



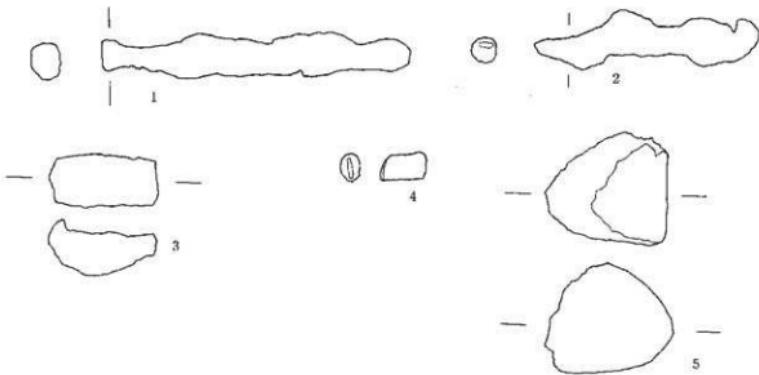
第5図 SI06, SX01 平面図、断面図 (S=1/60)



() は推定値、半径：cm

同番号	器種	出土位置、附位	口径	底径	深高	特徴
第6図1	土師器 瓢	S105、埋土1	(13.8)	—	(6.6)	外面、ロクロナデ、内面、ヘラミガキ、黒色処理
第6図2	瓶 甌 壺 环	S105、埋土1、埋土2	—	(6.2)	—	内外面、ロクロナデ、底黒、回転糸切り
第6図3	土師器 瓢	S105、埋土1、埋土2	—	(7.4)	—	内外面、ハケメ、底黒、木葉痕
第6図4	土 瓶 支脚	S105、埋土2	長さ17.2、直徑4.7	—	—	オサエ痕、片方の側面のみ黒色化している
第6図5	土師器 瓢	燒土	(12.7)	(7.0)	4.9	外面、ロクロナデ、内面、ヘラミガキ、黒色処理 底面、回転糸切り
第6図6	土師器 瓢	S106、埋土2	(14.2)	—	6.6	4.4 外面、ロクロナデ、ケズリ、墨黒、内面、ヘラミガキ 黒色処理、底黒、回転糸切り
第6図7	土師器 瓢	SX01、埋土1	(15.2)	8.4	6.3	— 外面、ロクロナデ、ケズリ、内面、ヘラミガキ 黒色処理、底黒、回転糸ケズリ
第6図8	瓶 甌 壺 环	SX01、埋土1	—	7.2	—	— 外面、ロクロナデ、底黒、不明
第6図9	土師器 瓢	SX01、埋土1	(18.6)	—	—	— 外面、マメリ、内面、ヘラミガキ
第6図10	土師器 瓢	SX01、埋土1	—	9.0	—	— 外面、オサエ、内面、ナデ、黒色物質付着
第6図11	土 瓶 支脚	SX01、埋土1	—	7.8	—	— 外面、ハケメ、内面、不明、接合板、底面、木葉痕
第6図12	土師器、高台环	遺構種認面	—	(9.6)	—	— 外面、ロクロナデ

第6図 出土土器



図版番号	種 別	川子位置、発位	特 訴	法 量
1	鉄製品	遺構確認面	棒状で、片端が膨らみ、針状の形態である	長さ 12.3cm、巾 1.8cm、32.3g
2	鉄製品	S105、埋土 1	鋒部分は長方形を呈している	長さ 8.9cm、巾 1.7cm 鋒部分は長さ 0.7、1.1cm、巾 0.2、0.3cm、25.7g
3	鉄製品	SX01、埋土 1	幅広の板状と想われ、片方が曲がっている	長さ 4.3cm、巾 2.2cm、13.8g
4	鉄製品	S106、埋土 1	細長い板状である	長さ 1.8cm、巾 1.1cm、鋒部分は長さ 1.0cm、巾 0.3cm、1.8g
5	石	S106、埋土 2	表面は滑らかになっている	長さ 4.3cm、巾 4.8cm、106.7g

第 7 図 出土鐵器、石器

2 大畑遺跡

大畑遺跡はJR東北本線白石駅の北方から東方に所在する遺跡で刈田郡衙跡と考えられている。これまで各種開発事業により確認調査が実施されてきた。年々宅地化が進み、水田、畠地帯としての景観は失われつつある。

遺跡の重要性と国道113号線バイパス建設計画を契機として、平成3年(1991)3月に市教育委員会によって分布調査が実施され、その結果を受け、幾つかの遺跡を統合し、遺跡範囲の拡大の措置をとっている。また、昨年度末、出土地点が明示された表探資料の寄贈を受けた。遺跡の性格を考える上で重要な資料が含まれていたことから、分布調査資料と共に掲載した。現況と対比するため、昭和56年の土地改良事業実施計画図等を示した。参考として世界測地系に基づく基準点の値を掲載する。2級基準点、X-221098.430、Y-17920.755、H45.223である。AAT05はX-221091.381、Y-17883.576である。

A 分布調査概要（第11図）

市教育委員会による分布調査の結果、ほぼ全域で遺物散布が確認された。これを受け、遺跡範囲の統合、拡大が行われ、現在の遺跡範囲となった。地区毎の遺物概要は次のとおりである。

A 地区は土師器が散布するが量は少ない。B 地区で土師器が出土、C 地区は内黒土師器が多い、D 地区では内黒土師器、中世陶器が出土した。H 地区内黒土師器が出土、I 地においては弥生の円田式、石器、菅玉が出土。J 地区で円田式、須恵器、土師器、中世陶器、近世陶器が出土、K 地区は内黒土師器、須恵器が出土した。L1、L2 地区では土師器、須恵器、布目瓦が発見され、須恵器がやや多く出土した。この箇所は須恵器がやや多かった。G 地区では土師器、須恵器、中世陶器、E、F 地区は土師器、須恵器、中世陶器が出土した。五昇路地区では土師器が確認された。

寄贈を受けた表探資料は、雇用促進住宅東側の畠地及び水田を①、遺跡北側の畠地を②、大畑遺跡全体のものは③及び④と分類し、注記も同様に行った。②では弥生土器と菅玉研磨器（現在は現物不明）も表探されている。

また、大畑遺跡周辺では広範囲にわたって近世陶磁器が出土することから、次項において、近世における村落の様相について解説を行う。

B 土地改良事業の確認調査（第12～14図）

昭和56年の土地改良事業実施計画図と当時の地形図を示した。遺跡周辺における大規模な土地改良が実施される以前の調査であることから、遺跡本来の地形、土層を示す重要な調査であるので、参考として掲載した。当時の遺跡名は大畑B遺跡である。現在、教育委員会には図面と写真が収蔵されているものの、遺物は残されていない。発掘調査面積は計277.46m²である。圃場整備完了直後の写真が教育委員会に残されている。

圃場整備以前は細かい区画の土地が広がっていた様子が伺える。調査トレンチは事業区の西側に設定されている。2トレンチでは溝跡、ピット、土坑が9基ほど確認された。長軸1mほどの大きいピット、土坑がある。配置から建物跡になりそうである。3トレンチでは、ピット6基は直径0.9～1mほどの規模のものが多い。半裁した遺構の深さは0.2～0.4mであった。第2層から弥生土器が多く出土して

いる。4トレンチでは一辺3m以上の堅穴住居跡1があり、煙道の長さが1.2mである。直径0.5~0.7mの土坑、溝跡2条、暗渠1条が発見されている。溝跡1の幅は0.6mである。第6層は遺物包含層である。

C 地 点 ②

県遺跡番号 02262

遺 跡 略 号 OH

所 在 地 白石市字東大畠46番1、46番2

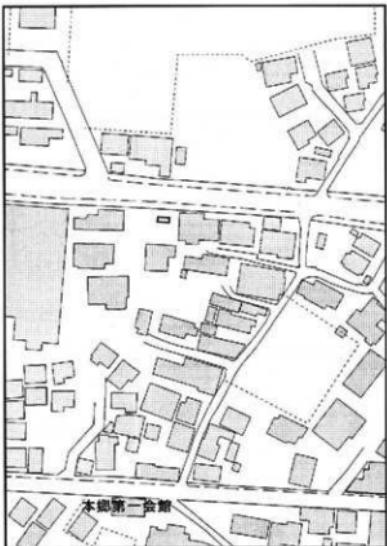
調 査 要 因 個人住宅建設、宅地造成

調 査 期 日 平成21年11月13日

調 査 面 積 1,010m² (掘削面積 35.76m²)

今回の箇所はJR東日本東北本線白石駅から北東へ約0.83kmの箇所にあり、現況は水田であった。個人住宅建設、宅地造成に伴う確認調査を実施した。隣接する箇所であることからまとめて報告する。

個人住宅建設地は家屋、駐車場設置場所を避け、確認調査トレンチ1箇所を設定した(T1)。調査の結果、東西方向で3.5m以上の溝跡1条を発見した。幅は0.6m程度である。埋土は10YR6/1褐色砂質シルトであり、深さは約0.3mである。西端の埋土では焼土が混じっており、土器が1点出土した。トレンチ東端には砂礫層が広がっていた。基本層位は第1層、表土、14cm、第2層、10YR8/4浅黃橙色シルト、50cm以上、第3層、砂礫層となっている。トレンチ中央の深掘り箇所の底面においても砂礫層が見られることから、砂礫層の検出面には40cmほどの比高がある。



第8図 大畠遺跡 地点① 4月13日 (S=1/2000)



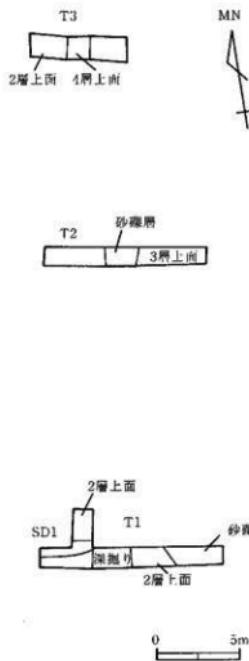
第9図 大畠遺跡 地点② (S=1/2000)

宅地造成箇所は分譲後に家屋が建築されることが見込まれている箇所を避けて、確認調査トレンチ2箇所を設定した（T2、3）。T3の基本層位は第1層、表土、10YR5/1褐灰色シルト、35cm、第2層、10YR3/1黒褐色シルト、土器が出土した、18cm、第3層、10YR7/4にぶい黄橙シルト、17cm、第4層、砂礫層、層厚不明であった。T2では遺構、遺物とも発見されなかった。

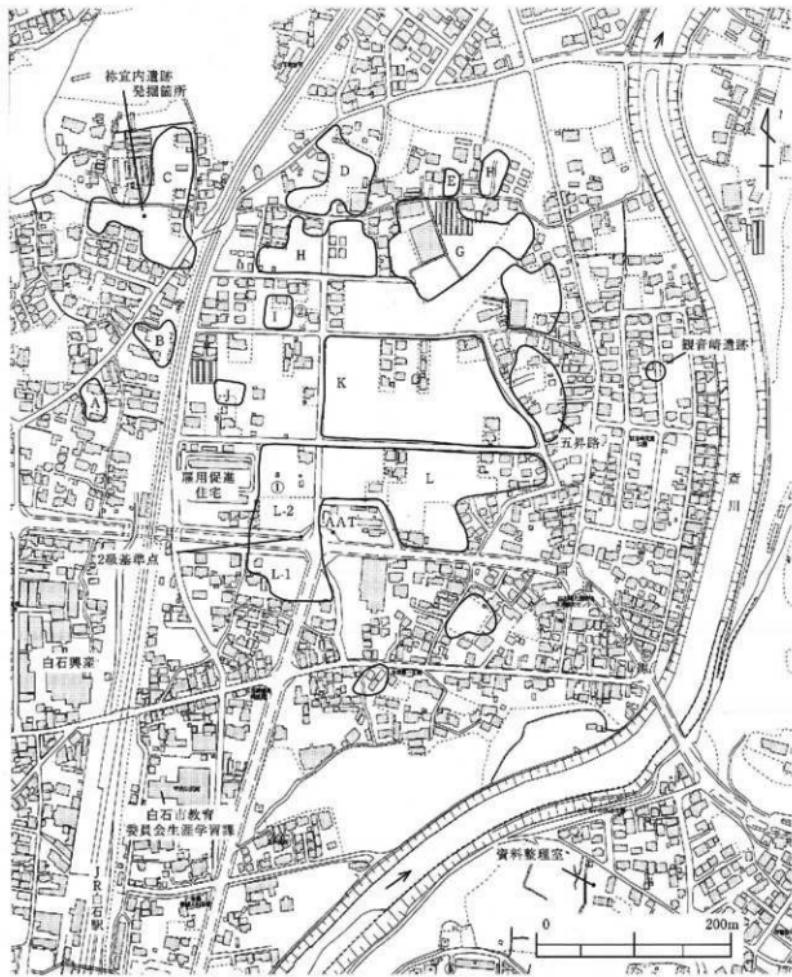
D これまでの大畠遺跡調査成果との関連

大畠遺跡における確認調査では、遺跡範囲のほぼ全域から遺構、遺物が発見されている。平成16年度以降の確認調査、国道113号線バイパス建設に伴う発掘調査については、調査成果がまとめられており、内容が把握できる。しかし、それ以外の調査については、発掘調査報告書としてまとめられたものが少なく、概要の把握さえ難しい状況である。

これまでの確認調査で発見された遺構については精査を行っておらず、正確な時期決定が難しいが、遺跡内部の遺構分布の概要は掴めるようである。大畠遺跡の中心部と考えられるのは、雇用促進住宅と国道113号線が接する地区で礎石建物跡等が発見され、瓦の出土も多い（近藤1991ほか）。雇用促進住宅北側では、掘建柱建物跡が複数発見され（平成16年度②地点、平成19年度②地点、津田2005、日下2008）。それより東側においては、竪穴住居跡が広範囲に分布している（平成17年度地点⑥、津田2006）。竪穴住居跡は、若干の空白域を挟んで（平成20年度地点③、日下2009）、観音崎遺跡まで続くようである（中橋、清野1978）。一方、南でも旧国道113号線付近まで竪穴住居跡が広がっている（平成19年度地点①、平成20年度④、日下2008、2009）。南北側は、調査実施箇所が少ないものの、遺物は確認されており（平成20年度地点①）、遺構が存在するようである。北西側では（平成19年度地点⑤、平成20年度地点②）で土坑、竪穴住居跡が確認されている。これらの住居跡は、隣接する柿宮内遺跡と連続するようである。



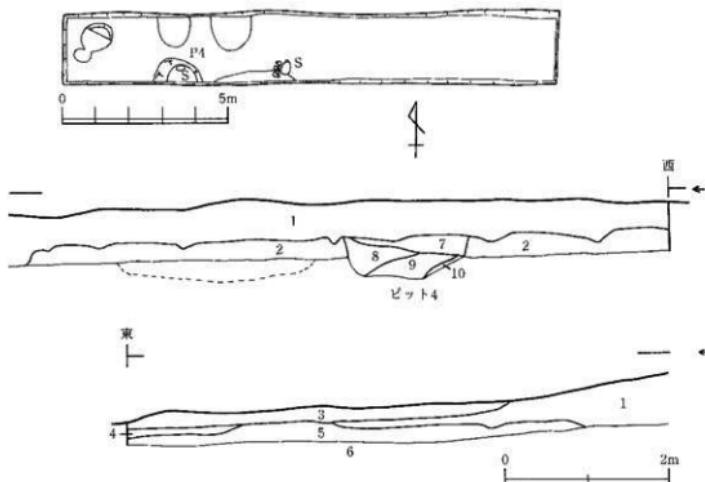
第10図 大畠遺跡 地点② (S=1/300)



第11図 大烟遺跡分布調査図

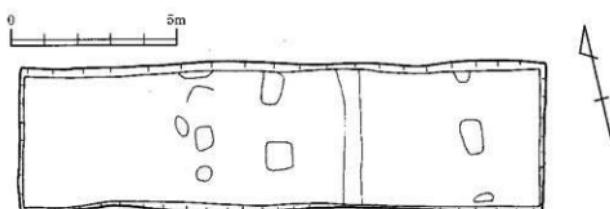
昭和 56 年度
(S=1/3000)



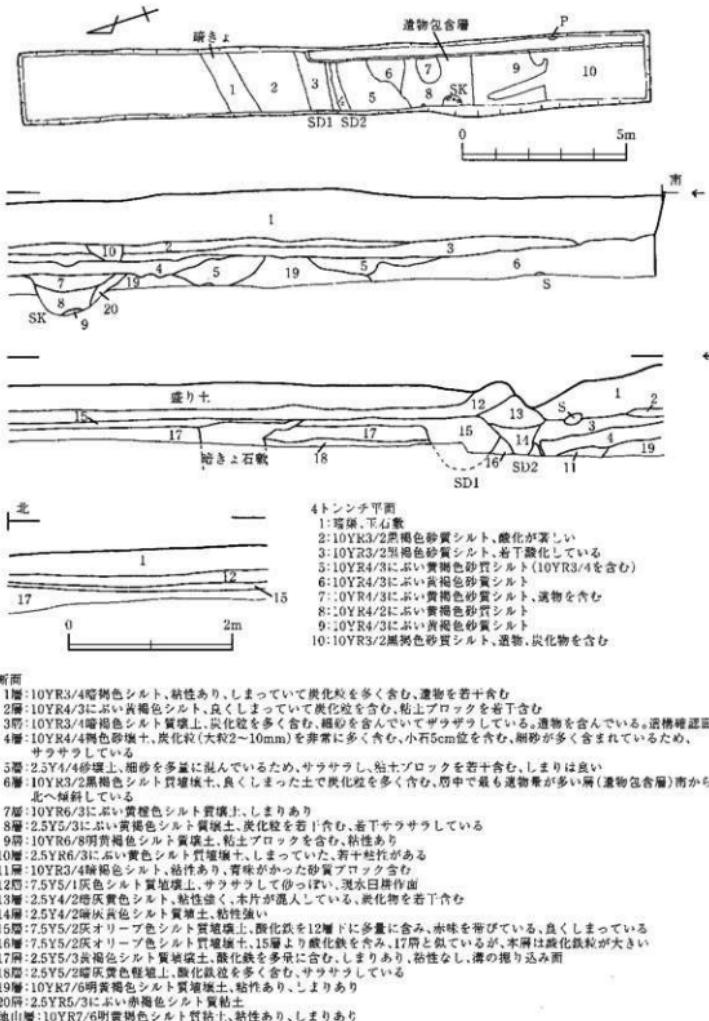


大烟 3トレンチ

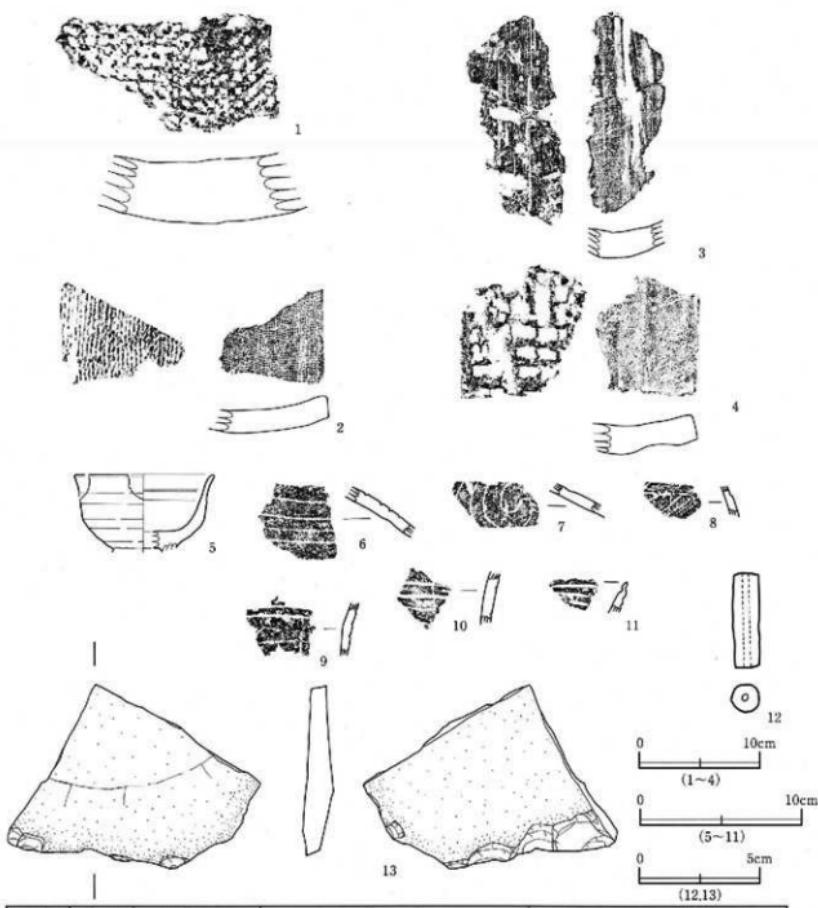
- 1層:10YR3/3暗褐色砂質シルト、灰土。
- 2層:10YR3/2黒褐色砂場土、灰土上部を多量に含む、この層上面が遺構確認面。
- 3層:2.5Y4/2暗灰褐色重層土、六庄耕作土。
- 4層:2.5Y4/1灰黄色重層土、水田耕作土。
- 5層:10YR3/4薄褐色砂質シルト、小砂利を若干含む、サラサラしてしまりなし。
- 6層:10YR4/6褐色砂、サラサラしている(逸山面)。
- 7層:10YR3/2黑褐色シルト質場土、3cm内外の積土ブロックを含む、かなりしまった土層。
- 8層:10YR3/1黒褐色シルト質場土、2cm位の小砂利を多く含み、砂質っぽくザラザラしている。
- 9層:2.5Y3/1黒褐色砂場土、サラサワしている。
- 10層:10YR3/4暗褐色砂場土、壁の崩れ上と思われる、サラサラしている。
- 7~10層は上坑の堆土。



第13図 大烟遺跡第3トレンチ平面、断面図(上) 第2トレンチ平面図(下)



第14図 大烟遺跡第4トレンチ平面図、断面図



図版番号	種別	出土位置、層位	特徴	備考
1	平 瓦	兀山遺跡	凸面、格子タキ目、凹面、ナデ	
2	平 瓦	鹿島山遺跡	凸面、幾何タキ目、凹面、ナデ	
3	平 瓦	大津遺跡①地区	凸面、ケズリ、凹面、ナデ、櫻香痕	
4	平 瓦	大津遺跡①地区	凸面、格子タキ目、凹面、ナデ	
5	須恵器碗	大津遺跡	内外面、ロクロナデ	推定口径8.8cm、残存高4.8cm
6	弥生土器	大津遺跡分布I地区	外面、平行弦文、内面、マメツ、円田式	
7	弥生土器	大津遺跡分布II地区	外面、円形文、内面、ナデ、円田式	
8	弥生土器	大津遺跡②地区	外面、破壊文、縄文L R、内面、ナデ	
9	弥生土器	大津遺跡③地区	外面、平行弦文、内面、ナデ、円田式	
10	弥生土器	大津遺跡④地区	外面、幾文R L → 平行弦文、内面、ナデ	
11	弥生土器	大津遺跡	外面、変形工字文、内面、沈綱、ミガキ、弥生前期	
12	管 玉	大津遺跡分布I地区	碧玉	長さ3.7cm、巾1.1cm、9.5g
13	板状石器	大津遺跡②地区	安山岩か流域岩	長さ10.5cm、巾7.2cm、最大厚1.1cm、重量994g

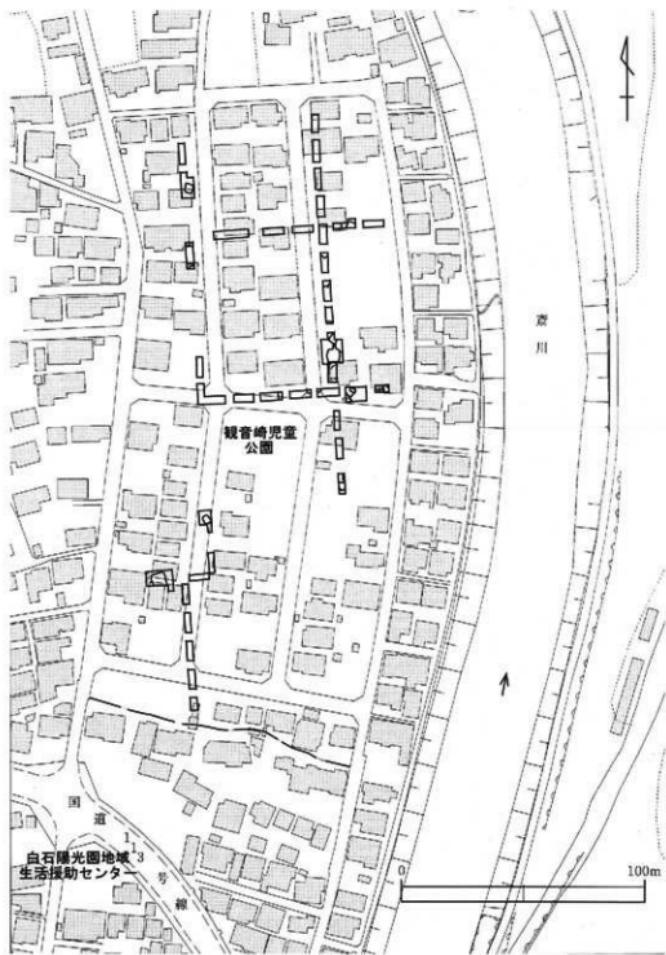
第15図 大津遺跡等出土遺物

3 観音崎遺跡

県遺跡番号 02322

所在地 白石市郡山字観音崎地内

昨年度から工事立会が相次いでいる遺跡である。昭和52年に発掘調査が実施され、住宅団地予定地全体に遺構が広がっていることが判明し、盛土保存を行った。昭和52年当時の調査報告書図と現在の地形図及び発掘区を重ね合わせ、第16図に示した。



第16図 観音崎遺跡 1977年確認調査トレンチ位置図

4 志在家遺跡

県 遺 跡 番 号 02359

遺 跡 略 号 SZK

所 在 地 白石市大鷹沢三沢
字前輪 10-4 ほか

調 査 要 因 資材置場等建設

調 査 期 日 平成 21 年 6 月 9 日
～ 8 月 3 日（確認調査）

調査対象面積 7,655.2m²
(掘削面積 428.3m²)

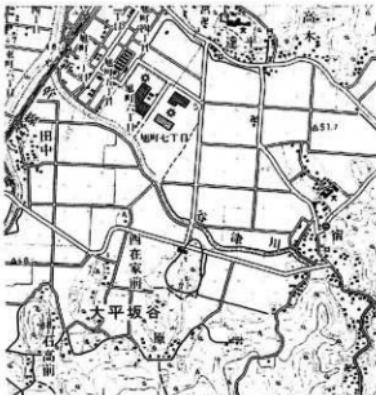
遺跡はJR 東日本東北新幹線線白石藏王駅から南東へ約1.4km の丘陵上位置にあり、現況は山林と畠地である。これまで、個人住宅建設に伴う確認調査が3次にわたって実施されている。調査の結果、古代から中世の溝、ピットなどが確認されている。

今回、資材置場等の建設計画があり、確認調査を実施した。トレントは18箇所設定した。その結果、堅穴住居跡6棟、ピット35基が発見された。

造構は事業地東側及び北西箇所を中心に発見された。T1の8層上面ではピット1基、T6、T7では30基ほどのピット、堅穴住居跡が発見され、重複していた。出土遺物は土師器、剥片等であり、古墳時代中期～後期に属する造構が多いと推定される。T10では古墳時代中期～後期と考えられる堅穴住居跡1棟が発見された。T18では詳細な時期が不明の土師器、T15では9世紀代の堅穴住居跡1棟が発見された。T8では銅鏡3枚（うち2枚は密着して出土）、他のトレントでも土師器、中世陶器、近世陶磁器が出土したが、造構に伴うものではなかった。中世陶器は東北、一本杉窯跡の製品と見られ、13世紀後半のものとみられる。北東側は大きく削平されており、造構は全く確認できなかった。表土から円筒埴輪片が発見されている。西側は工場、倉庫建設時に大きく切り土されており、旧地形は失われている。建設時に多量の土器が出土したという工事関係者の話もある。

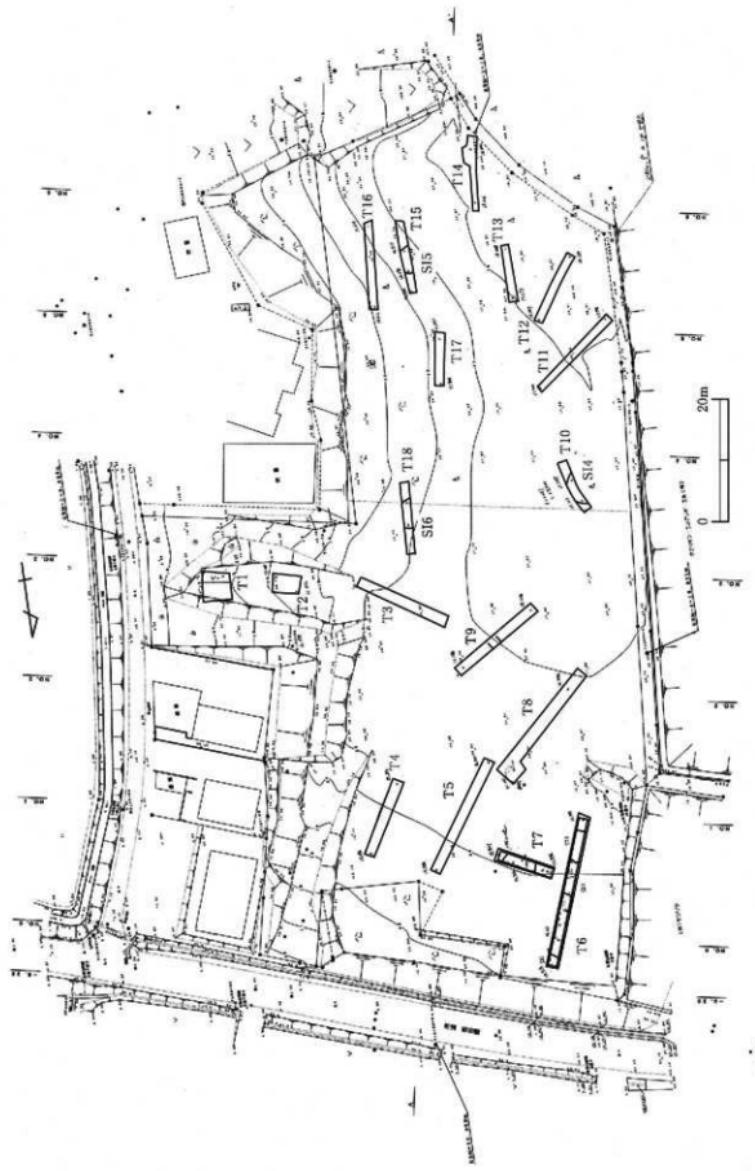
T10の堅穴住居跡は一辺4m以上、T15の堅穴住居跡は埋土に焼土が見られ、一辺4mで、脇にピットを伴っている。T18では地表から0.3mの深さで一辺4mの堅穴住居跡が発見された。T6では堅穴住居跡3棟、溝跡1条、ピット類22基が確認された。SI1は2m以上、SI2は3.5m、SI3は4.5mの大きさであった。SI3の煙道は長さ2.5mである。ピット類は直径0.1～0.6mまでとバラツキがあるが、0.4m前後の大きさのものが多い。プランは長楕円形、方形基調のものがある。T7ではピット12基が発見された。直径は0.2～0.4mのもので、埋土は大きく2つのグループに分けられる。

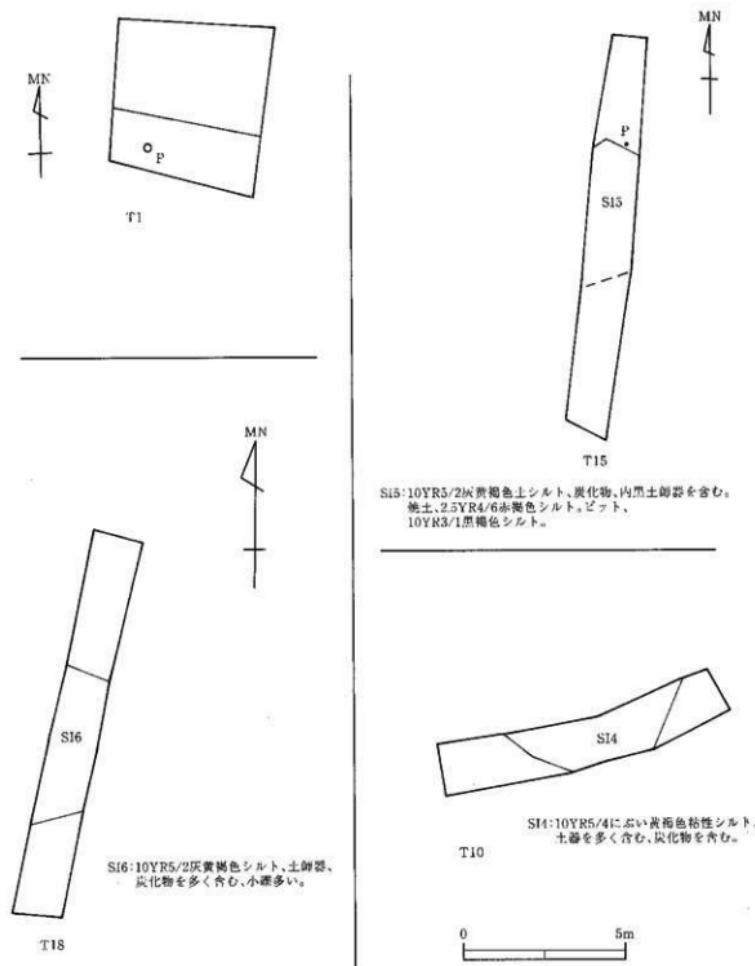
T3の基本層位は第1層、盛土、黒褐色土と茶褐色土の混土、土師器2点、コンクリート片を含む、層厚28cm、第2層、5YR5/8明赤褐色粘土、層厚23cm以上、T6では第1層、表土、10YR4/1褐灰色シルト、第2層、10YR6/3にぶい黄橙色粘土、20cm以上であった。



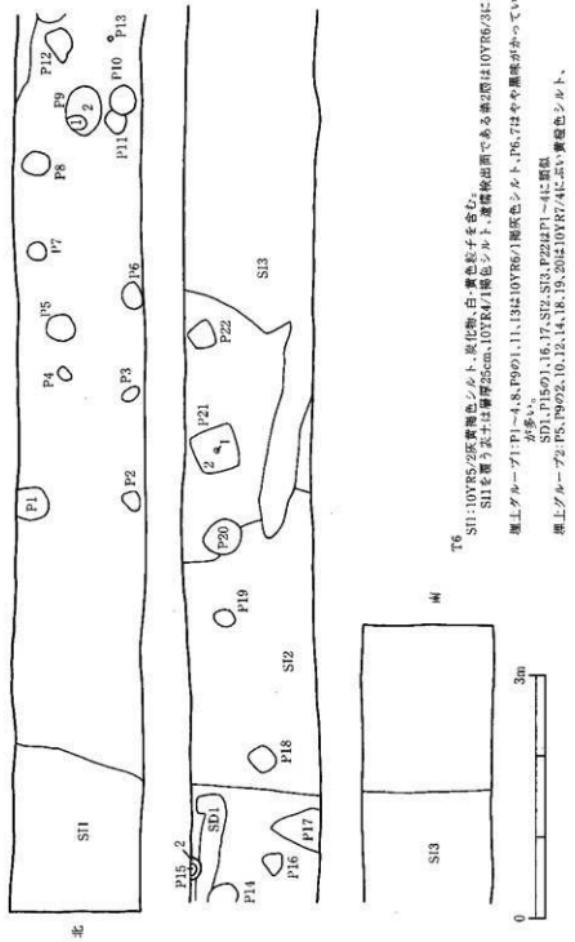
第17図 志在家遺跡位置図 (S=1/25,000)

第18図 志在駅遺跡全休図 (S=1/800)

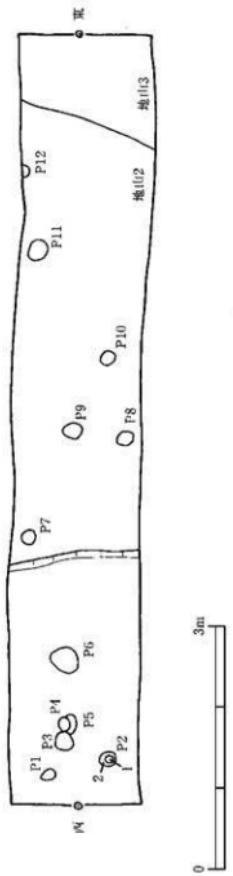




第19図 志在家遺跡遺構確認図

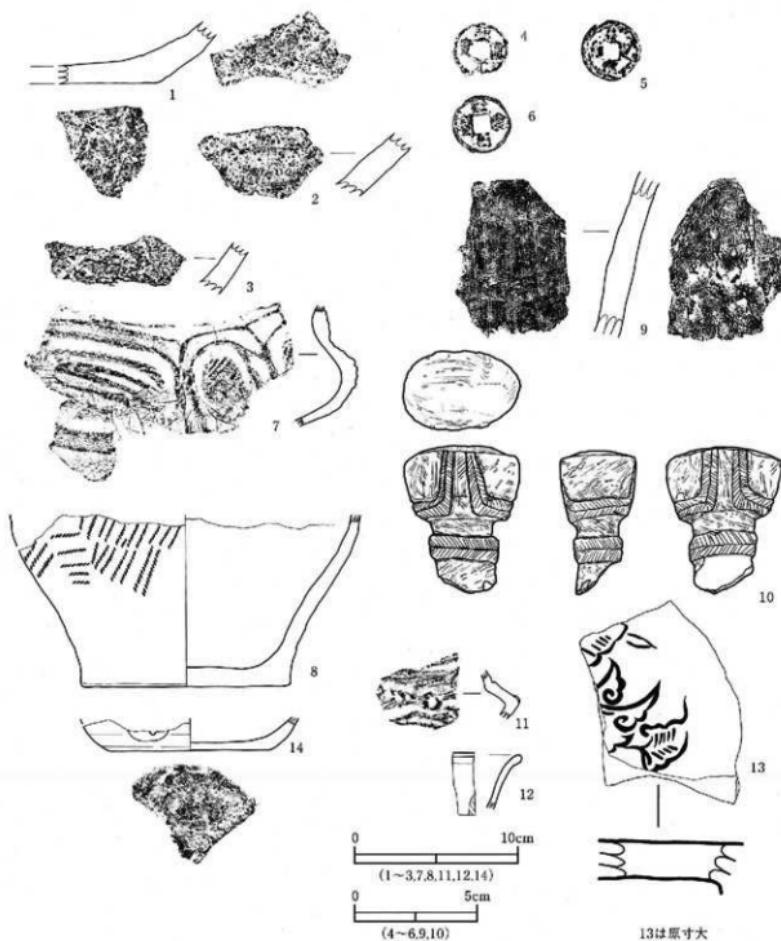


第20圖 志在家遺跡T6遺構配置圖

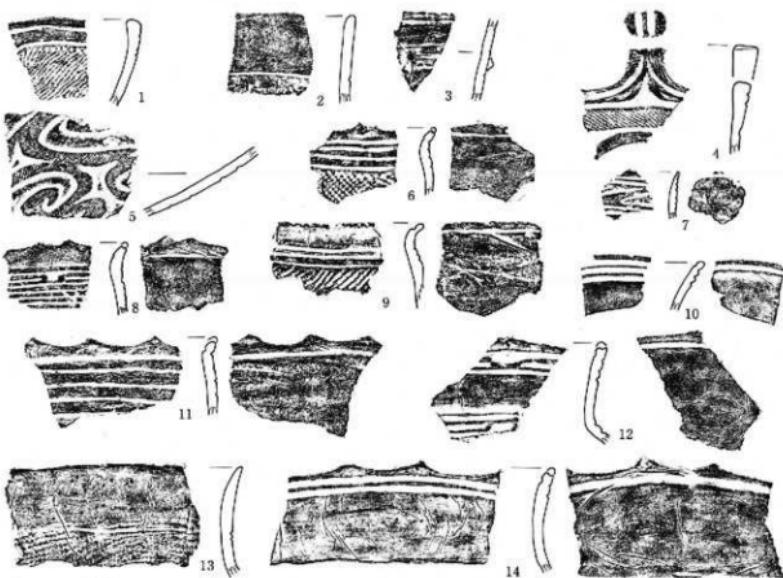


T7
層土グループ1(褐色土) P1,4,7,8,9,11,12
層土グループ2(褐色土) P2,3,5,6,10
P2のは黒色鉄、P1,3,5,6,10は炭化鉄が発じる。
P12は赤褐色土、P11,13はいわゆる焼山で黄～赤色岩石片を多く含む。

第21図 志在家道路T7 透構配位置図



第22図 出土遺物(1)



0 5cm

順序号	種別	出土位置、層位	特 訴	備考
				等 敷
22-1	中世陶器	志在家遺跡、表様	内外面、ナデ、東北、一本杉底	上川原遺跡か 元不忘分校遺跡
22-2	中世陶器	志在家遺跡、T5.1層	内外面、ナデ、東北、一本杉底	
22-3	中世陶器	志在家遺跡、表様	内外面、ナデ、東北、一本杉底	
22-4	開元通宝 銅鏡	志在家遺跡、T8	鋏目261年 銅鏡23cm、2.2g	
22-5	開元通宝? 銅鏡	志在家遺跡、T8	篆書、直径2.6cm、4.7g 銅鏡1094年	
22-6	麻家元宝 銅鏡	志在家遺跡、T8	篆書、直径2.6cm、2.0g 銅鏡1068年	
22-7	繩文土器 深鉢	外周、圓文RL→波比綱文 による段部、横位区間文、 内面、ミガキ、大溝9式		寄贈資料
22-8	繩文土器 深鉢	外周、圓文RL、底面 ミガキ、底面、ミガキ	底径 12.6cm	
22-9	円筒埴輪	志在家遺跡、表様	外周、底のハケメ、内面 エビナデ	
22-10	石柄頭部	白石市周辺	U字形に刻目のある陰唇 が並ぶ、全周に擦痕あり、 長さ5.5cm、巾4.7cm、95.4g	寄贈資料
22-11	繩文土器 口沿	谷津川遺跡 (AP15.17.3層)	彎曲する器形、外周、綱目 のある底部、マメツ、内面、 ミガキ、大溝BC→A式	
22-12	青磁器 黒か鉢	谷津川遺跡 (AM17.4層)	鹿児島系、14世紀?	発掘調査 資料
22-13	青磁器 黒か鉢	谷津川遺跡 (AM17.4層)	鹿児島系、14世紀?、見込み に草花文	
22-14	須恵器 环	谷津川遺跡 (AP15.17.3層)	内外面、ロクロナデ、底面 に×の削切、焼成前のヘラ ガキ、8世紀前半	
23-1	繩文土器 深鉢	上川原遺跡 元不忘分校	外周、圓文RL→波比綱文、 ナデ、東北、ミガキ、 内面、ミガキ、沈文、刻実 文、大溝、ミガキ、大溝A~ C式	寄贈資料
23-2	繩文土器 深鉢		外周、ミガキ、沈文、炭化物付 付、内面、ミガキ、大溝 Ⅲ群並行	
23-3	繩文土器 深鉢		外周、平行沈綱文、突起、ミ ガキ、内面、ナデ、ミガキ、 折目IV~V群並行	寄贈資料
23-4	繩文土器 深鉢		折目のみの突起、外周、縄 文RL→波比綱文、ミガキ、炭 化物付付、内面、ミガキ、田 字型縫合並行	
23-5	繩文土器 深鉢		外周、圓文RL→雲文、内 面、ミガキ、大溝C式並行	
23-6	繩文土器 深鉢		小突起、口脣部に縫合、外 周、圓文RL→平行沈綱文、 内面、沈綱、ミガキ、内外面 に炭化物付付、大溝A式	
23-7	繩文土器 深鉢		外周、雲文工字文、内面、ミ ガキ、大溝A式	
23-8	繩文土器 深鉢		2つで一組の突起、比原、外 周、平行沈綱文、ミガキ、赤 影、内面、沈綱、ミガキ、大 溝A式	
23-9	繩文土器 深鉢		口脇部に刻目、外周、斜 縫合、圓文RL→平行沈綱文、 内面、沈綱、ミガキ、大溝C~ A式	
23-10	繩文土器 深鉢		外周、平行沈綱文、ミガ キ、内面、ミガキ、大溝A~ A式	
23-11	繩文土器 深鉢		突起、外周、平行沈綱文、内 面、沈綱文、ナデ→ミガ キ、大溝A~A式	
23-12	繩文土器 深鉢		突起、口脇部に沈綱、外 周、雲文工字文、ミガキ、内面、 沈綱、ミガキ、大溝A~ A式	
23-13	繩文土器 深鉢		外周、圓文RL→波比綱文、ミガ キ、炭化物付付、内面、ミガ キ、喰糊末→泥生葉面	
23-14	繩文土器 深鉢		小突起、口脇部に沈綱、外 周、平行沈綱文、赤影、内 面、沈綱、ミガキ、大溝A~ A式	

第23図 出土遺物(2)

第2表 市内遺跡出土陶器等一覧

番号	出土施設	出土位置・層位	種別	特徴	備考
1	柿宮内遺跡	1~2層	磁器	肥前焼付鏡、一重の網目文、見込みに文様、17世紀中頃~後半	2009年4月27日地点①
2	柿宮内遺跡	表土	磁器	肥前焼付鏡718世紀末~19世紀前半	2009年4月27日地点①
3	柿宮内遺跡	1~2層	磁器	肥前焼、武昌	2009年4月27日地点①
4	柿宮内遺跡	1~2層	磁器	染付か白磁、折線の邊、近世	2009年4月27日地点①
5	大畠遺跡	表土	陶器	大瓶相馬、灰釉鏡、18世紀	寄贈資料の地点④
6	大畠遺跡	表土	陶器	小野州馬?、灰釉鏡、18世紀	寄贈資料の地点④
7	大畠遺跡	表土	陶器	龜形 不規、鉄錆小甕、近世	市教委分布調査地点J
8	志在家遺跡	表土	陶器	地方窯、近世~近代、灰釉、鋸?	2009年度調査
9	志在家遺跡	D9	磁器	肥前、染付、簡素陶、15世紀後半、外面は樹木、内面は四方稚文	2009年度調査
10	大黒天遺跡	丁1~2層	陶器	山外面上に魚、斜カム、滑窯、17世紀代	2010年2月23日調査
11	人見天遺跡	表土	陶器	大堀相馬、灰釉鏡、18世紀代	2010年2月23日調査
12	八幡坂遺跡	北溝跡、排水溝	磁器	輪唐草文壺、肥前、18世紀中頃	1987年度調査
13	八幡坂遺跡	北側測量区上部確認面	陶器	伏足碗、灰釉、茶葉、近世~近代	1987年調査
14	八幡坂遺跡	北溝、クロ東2層	磁器	湖戸瓦窯、削押のD、白釉、19世紀	1987年調査
15	八幡坂遺跡	北側測量区上部確認面	陶器	小野相馬、淡青色釉、18世紀	1987年調査
16	城吉遺跡	BC46.2層	陶器	四瓣、長石釉鏡、17世紀代肥前色窓	1977年調査
17	城吉崎遺跡	BE46.3層	陶器	美濃灰釉鏡、18世紀代	1977年調査
18	城吉崎遺跡	AL54.2層	陶器	会津本郷?灰釉鏡?蓋がつくるもの	1977年調査
19	松谷崎遺跡	2住Cコーナー溝	磁器	アーリント、新しい	1977年調査
20	城吉崎遺跡	表土	陶器	著しい	1977年調査

第3章 歴史資料からみた大畠遺跡周辺

近世の大畠遺跡周辺

ここでは、主に近世における大畠遺跡周辺の姿を史跡や史料を通して概観してみたい。

遺跡地図に見られるように、大畠遺跡の範囲は東北本線白石駅の北に大きく広がっている。

遺跡範囲の西端、少し突き出した辺りに白石城の城門を移築した延命寺がある。延命寺は真言宗で、門以外にも境内には幾つか興味深い伝承を持つ史跡がある。

ひとつに、現在小字名にもなっている不瀬ヶ池がある。今では水が無く石組を残すのみとなっているが、かつてはその名のとおり小さな池であった。その昔、平泉にあった源義經一行が兄頼朝のもとに賜せ参じようとしてこの地を通った際、供の武藏坊弁慶がこの池で薙刀を研いだところ、その鎌から池が濁りその後澄むことがなくなってしまった事からその名が付いたという。

同じく境内には安珍地蔵尊が安置されている。これは、もともと別の寺院にあったものが、その寺院が廃寺になりこちらに移された。安珍は白石出身で、伊具郡（現在の角田市）の東光院という修験寺で出家し、熊野三山に修行に向かう際紀州にて清姫という娘と恋仲になる。しかし、修行の妨げになるとして安珍は逃げようとしたが、清姫の執念強ましく、どこまでも追いかけられた挙げ句、寺の鐘に隠れていたところを蛇身と化した清姫に巻き付かれ恋の熱気で焼け死んでしまったのだという。その追善供養のために建てられたのがこの地蔵尊で、誰にも知られることなくこの地蔵尊の足指を手で書めてお祈りすると苦しまずにコロリと死ぬことが出来るという伝承がある。（飯沼 1984）

また、延命寺の南東には寺屋敷前や堂場前といった字名があるが、これはかつて常林寺（現在は白石市南町にある。）がこの場所にあったことに由来するといわれる。

遺跡範囲の東側は現在の白石市郡山地区である。中に五界路という字名があるが、これは「後

生路」とも表し、幕列の通る道を意味する。(風間 1984) この一帯には、先の寺屋敷前や堂場前のほかにも、この五昇路や觀音崎、弥陀内、桜宜内、十王堂前などといった宗教色を感じさせる地名が多く残っている。

さて、大畠遺跡の範囲は、近世の旧地名で言うところの白石本郷と郡山村にまたがっている。

まず白石本郷は、白石城主片倉家はかその家中が住む家中丁、奥州街道沿いに整備された宿場町である本町、中町、長町、豆狸町、短ヶ町、新町の白石六町、それ以外の一般の村に該当する部分の3つに分けることが出来るが(亘理 1984)、大畠遺跡のある地域は白石六町の東側、所謂村にあたる場所である。「風土記御用書出」(以下「書出」。白石市 1974『白石市史 5』所収)によると、本郷全体の村高は、

「一田代 百拾五貫九百八拾四文

一畠代 拾九貫九百七拾七文

畠代三百九拾九文之所雜穀御藏場 但茶畠無御座候事

都合 百三拾五貫五百六拾一文 右ハ一圓御知行山林野川共」

と 135 貫 561 文 (1,355 石 6 斗 1 升) である。これは、刈田郡内の片倉領 18 ヶ村で三沢村(現白石市大鷹沢三沢)に次ぐ第2位の高となる。

そして、「右ハ」以下により片倉家による一円知行が行われていたことが分かる。一円知行とは、屋敷や田畠のみならず山林、沼沢、原野なども含め、その知行地全体の自由裁量が認められた知行形態を言う。

片倉領では、知行地はさらに農民の耕作地(百姓前)と家中への知行地(家中給分)、足軽耕作地(足軽高)の3種に分類される。足軽の場合、家中給分と違いその土地にかかる年貢を農民同様領主に納めたことから、足軽耕作地は領主片倉家の蔵入地と位置付けられている。(白石市 1979)

領内におけるそれぞれの高の平均を割合で見ると、およそ百姓前と家中給分が共に 35% 程度、足軽分が 30% 程度であるが、本郷の場合全体の 61% を家中給分が占める一方、百姓前は 21% 程度と領内最低である。足軽高(蔵入地)を含めると武士の土地が実に 8 割を占めることになり、平均を大きく上回り領内でも高い部類に属するが、これは城下に近く比較的条件の良い耕地が広がっていた為とされている。(亘理 1984)

ちなみに、その人数構成は「書出」によると以下のとおり百姓人頭が 165 人、家中が 176 人となっている。

「一人頭 百六拾五人 内一村住居五人 一町住居百五拾八人

一寺 五ヶ寺 一修驗 壱ヶ院 一社人 弐人

外御家中前 百七拾六人 内寺三ヶ寺 修驗四ヶ院

(中略)

一寛永十九年御竿答仕御百姓ニ相立候者九十八人ニ御座候處其後六十七人相増(以下略)」

一方、郡山村は白石本郷の東に位置し、本遺跡の範囲となるのは小字で荒屋敷、五昇路と觀音崎の一部である。

同じく「書出」によると、村高及び人數構成は以下のとおり。

「一田代 三拾武貳百拾六文

一畠代 八貫六百武拾文 但茶烟三十一文

都合 四拾貫七百五文

右者一圓御知行山林野川共

一人頭 拾八人 内寺 壺ヶ寺

外御家中前 式拾参入 内御家中修驗 壺ヶ院

一寛永十九年御笠竿仕御百姓ニ相立候六人ニ御座候処其後十二人相増（以下略）

村高は 40 貢 705 文（407 石 5 升）、百姓人頭が 18 人で家中が 23 人となっている。

この郡山村については検地帳が残っている。（『白石市史』5 所収）その検地帳は、寛永検地の内容を後後に写したものであると思われるが、当時の検地帳で 1 村すべてが確認されているのは白石市関係ではこの郡山村のみであるという点で大変貴重である。これにより個々の田畠の位付けと面積を知ることができる。

それを一覧表で示したのが表 1 で、それぞれの割合を円グラフで示したのが図 1 及び図 2 である。田畠の位付は、上々、上、中、下、下々の 5 段階である。一見して、田畠ともに下及び下々の位が耕地面積の半分若しくはそれ以上を占めていることが分かる。対して上及び上々の位は田で 21%、畠で 20% にすぎない。

表 1 郡山村田畠の位付と面積

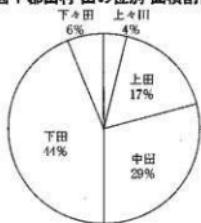
	上々田	上田	中田	下田	下々田
第1冊	3反4武8分	2丁1反26分	2丁9反6武13分	4丁5反7武15分	5反1武5分
第2冊	6反6武6分	2丁1反3武16分	4丁6反4武1分	6丁6反28分	1丁3武4分
計	1丁14分	4丁4反4武12分	7丁6反14分	11丁1反8武13分	1丁5反4武9分
田 合計			25丁7反8武2分		

	上々畠	上畠	中畠	下畠	下々畠
第1冊	1丁25分	1丁8反4武29分	2丁6反3武5分	5丁9反9分	8反12分
第2冊	6反2武24分	1丁7反8武17分	3丁3反16分	6丁1反9武26分	1丁4反1武4分
計	1丁6反3武19分	3丁6反4武16分	5丁9反3武21分	12丁1反5分	2丁2反1武16分
畠 合計		25丁5反3武17分			

※「鶴岡郡郡山村御検地帳」(第1冊及び第2冊、「白石市史」5所収)より作成。表記は同書による。

ほか、茶道が下茶道 26 分、下々茶道 7 分ある。(2冊合計)

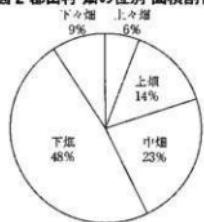
図 1 郡山村 田の位別 面積割合



また、寛永検地以後新田開発が盛んに行われた仙台藩において、郡山村ほかの刈田郡一帯は極めて開発高が低く、郡単位では宇多郡、気仙郡に次いで 3 番目の低さで、1 村平均にすると領内最低（藩政期を通して約 52 石）であることが明らかにされている。（高倉 1987）しかしながら、寛永 19 年（1642）から安永 6 年（1777）までの間に、白石本郷では人頭が 98 人から 165 人と凡そ 1.7 倍に、郡山村では 6 人から 18 人へと 3 倍に増加していることから、それぞれの持高が細分化、つまり農民層の分解が進行しているとの指摘もある。（亘理 1984）

「鉈で頭を剃るか 裸で茨を背負うか 刈田で百姓をするか」という言葉が今に伝わっている

図2 都山村 煙の位別 面積割合



が（関谷 1972）、これは位が低く狭小な土地しか持ち得なかった百姓達の戦しさを物語っていると言えよう。

一方で、この地域は紙類、温麺、生糸などの産物を有している。他の地域で盛んに新田開発が行われていた17世紀代に大きな高の増加を見ることがないこの地域で、史料的な厳しい制約はあるものの、稲作だけではない百姓経営のあり方を捉え直すことはできないだろうか。史料に見る人頭増加と実際に個々の経営にもたらした変化という問題も踏まえ、近世における当該地域の経済関係の再検討は今後の課題である。

これまで見てきたように、近世における大畠遺跡周辺の姿は城下近郊の耕作地帯であった。

第4章 まとめ

- 1 称宜内遺跡では堅穴住居跡等の拡がりが確認され、集落が西へ延びることが判明した。住居跡等の密度が高いことが明らかになった。
- 2 大畠遺跡地点②では、詳細な時期が不明の溝跡が発見された。大畠遺跡の北側にあたる今回の箇所周辺には、堅穴住居跡は存在しない可能性がある。
- 3 志在家遺跡では、丘陵の西及び南側を中心に造構が確認された。東側は削平されていると考えられる。円筒埴輪片の出土は大きな意味を持つ。これまで、白石盆地中心部の平野部における埴輪を伴う古墳は、鷹巣古墳群と亀田古墳群のみが知られていた。一昨年になって、鷹巣古墳群の立地する丘陵下でも埴輪の出土が確認されたが、今回の出土場所は鷹巣古墳群から約1.2km南であり従来、埴輪を伴う古墳が確認されていない箇所であった。鷹巣古墳群と亀田古墳群の中間に位置する箇所から円筒埴輪片が出土したことは、既に破壊された古墳もしくは窓跡が存在していた可能性が高いことを示している。

引用参考文献

- Kaoru Akoshima 2008 「A tradition of local history at a small castle town in northeastern Japan, 1968 to 1977
『Nakashashi's legacy and beyond』」『鐵王東籬の郷土誌・中橋彰吾先生追悼論文集』 pp.53-78
- 飯沼寅治 1984 「白石地方の伝承」『白石市史』3の(2) pp.283-415
- 氏家和典 1957 「東北上飾器の型式分類とその編年」『歴史』14 『東北古代史の基礎的研究』に再録)
- 遠藤智、清野俊太郎 1984 梅田遺跡調査報告書 白石市文化財調査報告書第22集
- 風間觀靜 1984 「地名の研究」『白石市史』3の(2) pp.1-282
- 片倉信光 1941 「鷹巣古墳群調査報告」『白石市史』別巻 考古資料篇に再録)
- 片倉信光、後藤勝彦、中橋彰吾 1976 『白石市史』別巻 考古資料篇
- 片倉信光 2009 郡山横穴古墳群調査概報 白石市文化財調査報告書第36集
- 菊地逸夫 1996 一本杉塚跡群 宮城県文化財調査報告書第172集
- 日下利寿、佐藤敏幸 2008 市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ 白石市文化財調査報告書第31集
- H 日下寿、櫻井和人 2009 市内遺跡発掘調査報告書4 白石市文化財調査報告書第33集
- 日下利寿、櫻井和人ほか 2009 和尚堂遺跡はか发掘調査報告書 白石市文化財調査報告書第37集
- 日下利寿ほか 2009 白石条里制跡推定地はか发掘調査報告書 白石市文化財調査報告書第35集
- 近藤利和 1991 「大畑遺跡」「無南園遺跡はか」宮城県文化財調査報告書第144集
- 斎藤良治 1975 車丁占墳調査報告書 白石市文化財調査報告書第10集
- 斎野裕彦 1993 「弥生時代の大刀直縁刃石器(上)」「弥生時代博物館研究報告」第2集 pp.85-109
- 斎野裕彦 1994 「弥生時代の大型直縁刃石器(下)」「弥生時代博物館研究報告」第3集 pp.31-68
- 佐々木和博、菊地逸夫 1985 「白石市兀山遺跡出土の古瓦」『赤い本 片倉信光氏追悼論文集』 pp.55-61
- 白石市 1974 「風土記御用書出」『白石市史』5史料篇(F)
- 白石市 1979 『白石市史』1
- 脇原祥夫、清野俊太郎、日下利寿 2009 八幡坂遺跡はか发掘調査報告書 白石市文化財調査報告書第34集
- 清野俊太郎、遠藤智 1981 谷津川・江ノ下遺跡調査報告書 白石市文化財調査報告書第23集
- 清野俊太郎 1992 「人頭遺跡」『第18回古代城柵官衙遺跡検討会資料』 pp.87-89
- 清野俊太郎 2002 「大畑遺跡」「平成13年度宮城県遺跡調査成果発表要旨」 pp.11-16
- 高倉淳 1987 「仙台藩の新田開発・正保・天保郷帳の分析-」『仙台郷土研究』235 pp.12-21
- 閑谷宗一 1972 「奥州白石亂史」『白石市史』2 pp.549-684
- 高橋栄一 2003 「大畑遺跡」「瓊の越遺跡はか」宮城県文化財調査報告書第195集
- 津田俊介 2006 市内遺跡発掘調査報告書I 白石市文化財調査報告書第29集
- 津田俊介 2006 市内遺跡発掘調査報告書II 白石市文化財調査報告書第30集
- 手塚均ほか 1986 田柄貝塚 宮城県文化財調査報告書第111集
- 中橋彰吾、清野俊太郎 1978 犬音崎遺跡調査報告書 白石市文化財調査報告書第18集
- 廣谷和也 2008 「東北南部における古墳出土鉄器の変遷」「古文化継続」第60集 pp.107-128
- 藤沢敦 2001 「阿武隈川流域の前方後円墳(その2)」「宮城考古学」第3号 pp.31-52
- 藤沢敦 2004 「埴輪の地域性と時代性 東への波及」「考古資料大観」第4巻 pp.220-230
- 八幡伸明 1995 「大畑遺跡」「大畑遺跡はか」宮城県文化財調査報告書第168集
- 亘理悟郎 1984 「白石領村落の住民構造」『白石市史』3の(2) pp.417-566

第3表 届出一覧

No.	登記番号	取扱内容	所 在 地	落成年月日	届出期間	概 言
1	羽山道路	免認請求	白石市白川大字幕原字温森 112-14ほか	採石	平成2年4月25日 ~6月30日	免認請求実施。
2	大通道路	免認請求	白石市字大通107番地12ほか	路透設	平成2年	免認請求実施。
3	天保山A	免認請求	白石市横河井字大通野55号ほか	広域農道建設	平成3年7月3日	トレンチ2箇所設定、進捗、遺物なし。
4	天保山B	免認請求	白石市字天保山59号ほか	都市計画道路建設	平成3年	免認請求実施。
5	大通道路	免認請求	白石市字東大通103-1,103-2	路透設	平成7年4月13日	既存内線不明。
6	大通道路	免認請求	白石市字小ヶ瀬97,97-2	路透設	平成7年6月5日	既存内線不明。
7	城内町敷	免認請求	白石市萬葉町寺入段	都市計画道路建設	平成7年	免認請求実施。
8	鹿之木塚跡	免認請求	白石市鹿之木塚寺入段	都市計画道路建設	平成7年	免認請求実施。
9	鹿之木塚跡	(10号町)	白石市鹿之木塚	河川法下工事	平成7年7月25日	進捗、遺物なし。
10	曾根山道路	免認請求	白石市曾根山字本生田 111番地	工事増築	平成7年10月11日 ~16日	トレンチ2箇所設定、進捗、遺物なし。
11	新谷道路	免認請求	白石市郡山字新谷196	住宅建設	平成7年10月9日	既存1.3mのS字で、廣、延の袖、遺物を発見。
12	石川敷	免認請求	白石市字大石川70-44	路透設	平成7年11月2日	進捗、遺物なし。
13	御来来道路	免認請求	白石市字御来来95	住宅建設	平成7年12月13日	トレンチ2箇所設定、深さ2mまで掘り下げるが遺構、遺物はなし。
14	人乐道路	免認請求	白石市字人乐23-1	路透設	平成7年12月12日	進捗なし、地引「人乐西側」。
15	大通道路	免認請求	白石市字東大通60	路透設	平成8年3月23日	既存2.6mで8世紀頃の土器が多数组出した。
16	天保山道路	免認請求	白石市字天保山1-1	路透設	平成8年6月~	免認請求実施、既存翻修。
17	天保山道路	免認請求	白石市天保山町	都市計画道路建設	平成8年12月10日	進捗、遺物なし。
18	白石城跡	免認請求	白石市吉田町	地盤改良	平成9年2月17日 19日,20日,24日	測量が終了した箇所あり、未点の箇所は斜面等から削除すると多少の誤差を残り残している。
19	大通道路	免認請求	白石市字東大通19-123	小令耕設	平成9年3月13日	既存内線不明。
20	大通道路	免認請求	白石市大字唐人町内	公道造成	平成8年9月18日	裏面内容不明。
21	口上道路	免認請求	白石市相良字長谷上403	住宅建設	平成8年7月11日	トレンチ2箇所設定、遺物の出土は不明。
22	口上道路	免認請求	白石市相良字長谷上43-2	住宅建設	平成8年7月11日	トレンチ2箇所設定、遺物の出土は不明。
23	大通道路	免認請求	白石市字大通9番の2	路透設	平成8年7月10日	トレンチ2箇所設定、遺物の出土は不明。
24	鏡子ヶ瀬	免認請求	白石市鏡子ヶ瀬263	住宅建設	平成8年7月19日	トレンチ2箇所設定、遺物なし。
25	白石冲縄	免認請求	白石市田町、東町、大周沢字谷	河川改修	平成8年8月10日	既存内線不明。
26	田中緩急港	免認請求	白石市田中	排水路改修	平成9年2月18日	調査内容不明。
27	田中道路	免認請求	白石市大字佐代二字田中 180-1,181-2	片側住宅建設	平成8年7月8日	トレンチ2箇所設定、遺物の出土は不明。
28	鏡子ヶ瀬	免認請求	白石市郡山字鏡子ヶ瀬348	住宅建設	平成9年4月9日	既存1.6mで2階建、土器片が出土した。
29	鏡子ヶ瀬	免認請求	白石市郡山字鏡子ヶ瀬173,176	住宅建設	平成9年4月9日	既存1.3mで大型生糞跡、灰基層、瓦化物が出土した。
30	福島直里	免認請求	白石市福島直里字南福島	畜舍建設	平成9年4月15日	進捗、遺物なし。
31	大通道路	免認請求	白石市字大通16-1	住宅建設	平成9年4月20日	進捗、遺物なし。
32	大通道路	免認請求	白石市字大通136	路透設	平成9年6月20日	進捗、遺物なし。
33	大通道路	免認請求	白石市字大通116-1	路透設	平成9年7月20日	トレンチ2箇所設定、既存、遺物なし。
34	丸山道路	免認請求	白石市丸山町一丁目73番地23, 24,24-2	駐止沿	平成9年7月11日	トレンチ2箇所設定、既存、遺物なし。
35	口上道路	免認請求	白石市大通2-2字山中140- 147,148ほか	住宅建設	平成9年7月10日 ~18日	トレンチ2箇所設定、既存地形を伴う堅穴柱居床1種類を見た。
36	大通道路	免認請求	白石市大通2-2字山中140- 147,148ほか	住宅建設	平成9年10月8日	トレンチ2箇所設定、遺構、遺物なし。
37	大町城跡	免認請求	白石市大町大字大町 170-1,167	路透設	平成9年11月7日	進捗、遺物なし。
38	經舟山	免認請求	白石市大町大字經舟山	畜舍建設	平成9年12月16日	進捗、遺物なし。
39	白石城跡	免認請求	白石市深堀町7-5	学校用地の法面工事	平成9年11月 ~平成10年2月	施図工事。
40	大通路	免認請求	白石市大通8号線ノ入	路透設	平成10年2月23日	進捗なし。
41	余沢跡	免認請求	白石市大澤町一丁目 3番地,3番地2	路透設	平成10年12月19日	既存改修
42	三原山	免認請求	白石市稻内長字三原山223- 21,21-2,3-2,3-6	地造造成	平成10年4月11日	トレンチ4本、約97mを充分するが、遺構、遺物は確認されず。
43	白石城跡	免認請求	白石市稻内町 稲内	白石第二墓場跡	平成10年6月22日 ~30日	進捗、発見物を発見、免認請求実施、別途報文添付。
44	大通道路	免認請求	白石市字大通88番地	住設草木整備	平成10年6月11日	既存改修。
45	白石城跡	免認請求	白石市大町大字町内	畜舍新築	平成10年4月25日	既存改修、トレンチを設定しているが、内容不明。
46	白石城跡	免認請求	白石市並町内	水路施設整備工事	平成10年7月18日 半11月29日	進捗、遺物なし。
47	猪崎川通	免認請求	白石市猪崎川内既存水路敷設工事	水路施設	平成10年4月11日	トレンチ1本、約33.5mを充分するが、遺構、遺物は確認されず。
48	大通道路	免認請求	白石市字大通7-3番地7号	畜舍新築	平成10年4月18日	既存改修不明。
49	大通道路	免認請求	白石市大通7-1番地6号	住宅建設	平成10年5月11日	土壌、ブロックが発見された。
50	横須瀬跡	免認請求	白石市大町大字町内	物置新築及昇降車	平成10年6月8日	トレンチ調査を行っているものの内容不明。
51	朝日通	免認請求	白石市大字唐人町3-3-2号ほか	畜舍新築	平成12年2月22日 ~3月2日	約2350m²の既存木造2階建の既存に、長さ60.0m×幅30.0m×高さ3.0m-3.5m以上、1本のトンネルを入れ、その結果、土壌に変化があるが、遺構、遺物は確認されなかつたと記載している。
52	奥田西通	免認請求	白石市奥田字西河内	良善改良工事	平成11年1月11日	免認請求実施。
53	下川原子A通跡	免認請求	白石市福岡八字川原子上 51-2	牛尾築墓	平成10年11月14日	トレンチ調査を行っているものの内容不明。

No.	規制名	規制番号	対応内容	所在地	調査原図	調査結果	調査結果
54	東町走跡	02312	確認調査	白石市瑞穂町御谷本町48-2、219-216	住宅整地及道筋跡	平成11年4月19日	長さ15m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、土壌変化等の確認。地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
55	山谷斜面崩落	02400	確認調査	白石市西町丁目114-6	佐宅整地	平成11年4月15日	高さ10m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れられ、その結果、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
56	大沢整地	02262	確認調査	内石市東大字太82番1	住宅整地	平成11年4月26日	高さ17m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れられ、その結果、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
57	上野川道路	02176	確認調査	白石市城南一丁目173-2	住宅整地	平成11年5月25日	高さ15m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れられ、その結果、地形に変化なく、透通性は共に確認できなかった。
58	鳥越道路	02066	確認調査	白石市福岡町御谷字引板781-791-千手坂並木11	佐永新築	平成11年5月19日	(1) 長さ8m× 幅6m× 高さ10m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ35m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
59	猪崎橋	02322	▼▼立合	白石市郡山字猪崎町139-1,139-3	住宅新築	平成11年6月21日	(1) 長さ15m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ35m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
60	宝内道路	02430	確認調査	白石市宇都宮内69番1,70番1	住宅新築	平成11年6月5日	長さ7m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
61	大沢道路	02051	確認調査	白石市福岡八字宮ノ上15番地87	住宅新築	平成11年5月29日	長さ15m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
62	宝内道路	02382	確認調査	白石市吉岡町本字新田町16-1ほか	燕巣築地下水槽	平成10年11月7日	(1) 長さ12m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ12m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
63	猪崎橋	02400	確認調査	白石市坂町二丁目8番8	住宅整地	平成11年6月29日	(1) 長さ13.5m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ13.5m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
64	田中道路	02136	確認調査	白石市大東町二丁目8番田中155-5	賃貸建築	平成11年8月23日	長さ8m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、その結果、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
65	日中道路	02135	確認調査	白石市大東町二丁目8番田中155-1,156-3,156-4	家業整地	平成11年8月23日	(1) 長さ13.5m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ21m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
66	土合築堤	02252	確認調査	白石市福岡町本字英柳一番40番-2,46番-2	生名新築	平成11年7月29日	住宅新築の殆どに場所により傾斜があるが、傾斜の場合は傾斜方向を除く、透通性は共に確認されなかった。
67	白石冷涇路	02133	確認調査	白石市東町二丁目55-5,55-12	賃水建築及び住宅新築	平成11年6月18日	(1) 長さ16m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ24m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
68	喜ノ内道路	02231	確認調査	白石市喜ノ内平谷字白石前瀬103-16ほか	住宅新築	平成11年7月5日	長さ9m× 20m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
69	銀浦前瀬	02279	確認調査	(千葉市大平町11号) 銀浦前瀬21-8, 21-10	住宅新築	平成11年7月28日	長さ24m× 20m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
70	白石東洋新里定期	02400	確認調査	白石市朝日町2丁目17番15	住宅整地	平成11年8月25日	長さ8m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認されなかった。
71	赤井松原	02300	確認調査	白石市小字寺上4丁目2番9	住宅新築	平成11年9月20日	長さ51m× 70cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、その結果、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
72	大須新築	02262	確認調査	白石市寺字寺敷新7番1	住宅新築	平成11年9月27日	(1) 長さ6m× 80cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ27m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
73	大日新築	02268	確認調査	白石市吉野町大日19-12	住宅新築	平成11年10月25日	(1) 長さ8m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ27m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
74	権現山道路	02209	確認調査	白石市大日新築寺山(権現)	寺石新築	平成11年11月1日	(1) 長さ2m× 10cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ6m× 80cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
75	人頭道路	02262	確認調査	白石市大字火塚一番71-1	住宅新築	平成11年11月17日	(1) 長さ3m× 15cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ27m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
76	寒風山道路	02172	確認調査	白石市荒川字山川171-4ほか	住宅新築	平成11年11月27日	(1) 長さ5.5m× 80cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ27m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
77	佐久間新里定期	02400	確認調査	白石市旭町二丁目6-7	住宅新築(佐久間1)	平成11年12月9日	(1) 長さ8m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、その結果、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
78	赤塙先端道路	02050	確認調査	白石古賀町八字宮ノ川71-7,73-7,79	佐宅整地	平成11年12月18日	(1) 長さ6m× 80cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ13m× 100cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
79	白石生並新築	02400	確認調査	白石市旭町三丁目1-1	寺米建築	平成12年2月15日	(1) 長さ8m× 80cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、その結果、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ27m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
80	西山塗装	02115	確認調査	白石市城南一丁目H4-5,17	住宅新築	平成12年1月15日	(1) 長さ5m× 60cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ8m× 80cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。
81	金子新築	02400	確認調査	白石市旭町五丁目6-1	住宅新築	平成12年3月12日	(1) 長さ8m× 80cm× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、その結果、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。 (2) 長さ27m× 幅10m× 高さ1.5m以上に上のトレンチを入れ、地形に変化なく、透通性は確認できなかった。

No	送達地	規約	対応内容	所 在 地	調査原因	調査期間	調査結果
82	鹿島山道跡	02146	確認調査	白石市山形町51-1	生宅構築	平成12年4月18日	調査の概要(1)長さ9m×幅60cm×深さ25cm、(2)長さ7m80cm×幅60cm×深さ25cmのトレンチを入れ、その結果、(3)のトレシングから、底、高さ50cm×幅50cm×深さ50cmの石室・土器置きからの土壌層を検出した。同小字頂、建物の機能に苟しては、遺構調査が前提としている間に実施することを示唆した。
83	白糸入溝 跡、大口 向ヶ瀬	02275	工事立会	白石市吉岡山御所半大日向54-1、 河内坂山32	探査坑、散牧構造底	平成12年10月3日、 10月16日、10月22日	調査の概要、確認した土地の前面の中で、矢を打て、牧場をたてる時、草取り終了後、施肥を入れた時にそれせりもかみた。更に馬場には、施肥は検出されなかつた。
84	小幡通跡 大津通跡	02121	確認調査	白石市吉田135番地1地先	中村原白石沖縄遺 跡工事	平成11年度	確認調査実施。
85	木原通跡	02121	工事立会	白石市字吉田町123地先、ほか 木原通	平成11年度	立会結果不別。	
86	白石城跡	02197	工事立会	白石市延岡町112番地内	追加改修工事	平成11年度	立会結果不明。
87	秀山堂跡	02258	工事立会	白石市青石山135番地内	木の池周辺 (追加改修工事)	平成11年度	立会結果不明。
88	白石城跡	02197	確認調査	白石市吉岡町112番地1地先	駒見人跡万葉 石碑復元工事	平成11年10月22日	便、化穴等を発見。
89	大津通跡	02262	工事立会	白石市大字横一番36-3地先～ 128番地	公共下水道事業 大字一番井筒	平成12年10月17日、 11月10日	マンホール設置工事中に立合い調査を実施することを指示した。立合い點数が少く、既設した結果、上層に変化はなく、遺構・遺物等は検出されなかつた。(○長さ5m×幅2m×深さ1m)と(○長さ2m×幅1.5m×深さ1m)と
90	大沢跡跡	02262	工事立会	白石市吉田大字横9-2地先～19番地	公共下水道事業 内川事業・土塁	平成12年10月10日、 11月14日	マンホール設置工事中に立合い調査を実施することを指示した。配管地の内、既設した結果、土層に変化はなく、遺構・遺物等は検出されなかつた。(○長さ5.15m×幅3.9m×深さ1.3m)
91	人情道跡	02262	確認調査	白石市字木大字横35-4地先～ 56号地	公共下水道事業 東人情道	平成13年1月26日、 2月11日、3月12日、 4月1日	マンホール設置工事中に立合い調査を実施することを指示した。立合い調査の内、既設した結果、上層に変化はなく、遺構・遺物等は検出されなかつた。
92	柳原通跡	02356	工事立会	白石市大字横4-1字横4番 5-10-1番地先	公共下水道事業 (大字大川東幹線)	平成13年4月11日、 16日	マンホール設置工事中に立合い調査を実施することを指示した。立合い調査の内、既設した結果、上層に変化はなく、遺構・遺物等は検出されなかつた。
93	海の説書 跡退跡	02250	確認調査	白石市吉岡町字延岡7番 22番地ほか	海の一本木通り橋 辺工事	平成13年度	発掘調査実施、現状報告。
94	白石城跡	02197	工事立会	白石市延岡町7番地内	新潟公園野球場 整備	平成12年12月15日、 20日	内野・外野付近確認調査、同時に立合い調査を実施。広場地の野球場では、立合い調査は検出されなかつた。
95	白石 奈良制御 櫻院跡	02400	確認調査	白石市延岡町1丁目7-1-2[1]、 8-6-[1]	生宅造成	平成12年7月3日 ~4日	調査の概要、【1】の地盤(1)長さ50cm×幅50cm×深さ10cm、(2)長さ2.1m×幅60cm×深さ10cm、(3)長さ1.2m×幅1.2m×深さ10cm、(4)長さ7m×幅60cm×深さ10cm、(5)長さ2m×幅1.5m×深さ10cm、(6)長さ20cm×幅20cm×深さ10cm、(7)長さ1.5m×幅1.5m×深さ10cm、(8)長さ1.5m×幅1.5m×深さ10cm、(9)長さ10cm×幅10cm×深さ10cm、(10)長さ3m×幅1.5m×深さ10cm、(11)長さ3m×幅1.5m×深さ10cmのトレンチを入れ、調査、その結果、既設と直角約90度のケント池が検出されたが、矢は、遺構・遺物は検出されなかつた。
96	田千屋 通跡	02123	T.事立会	白石市麻生字田千屋26-7,26-8	移転確認	平成12年11月1日	調査の概要、新規シングルトレンチ調査工事中に立合い調査を実施。新規のカット、長さ80cm×幅60cm×深さ60cmの1.4mのトレンチを入れ、調査、その結果、既設と直角約90度のケント池が検出されたが、矢は、遺構・遺物は検出されなかつた。
97	白石 堀跡 排水渠	02400	確認調査	白石市延岡町2丁目7-3	用地建築	平成12年7月29日	調査の概要、(1)既設のトレンチ(1)長さ50cm×幅50cm×深さ10cm(2)長さ2.1m×幅60cm×深さ10cm、(3)長さ1.2m×幅1.2m×深さ10cm、(4)長さ7m×幅60cm×深さ10cm、(5)長さ2m×幅1.5m×深さ10cm、(6)長さ20cm×幅20cm×深さ10cm、(7)長さ1.5m×幅1.5m×深さ10cm、(8)長さ1.5m×幅1.5m×深さ10cmのトレンチを入れ、調査、その結果、既設と直角約90度のケント池が検出されたが、矢は、遺構・遺物は検出されなかつた。
98	梅田通跡	02257	確認調査	白石市延岡町1丁目4-4	住宅建築	平成12年7月25日	基礎工事中に立合い調査を実施。築堤の内、3箇所を調査した結果、(1)既設のトレンチ(1)長さ50cm×幅50cm×深さ10cmのトレンチを入れ、調査、その結果、既設と直角約90度のケント池が検出されたが、矢は、その結果、既設に変化はなく、遺構・遺物は検出されなかつた。
99	白石 奈良制御 伊弉諾	02400	確認調査	白石市延岡町4丁目53	貸家建築	平成12年8月8日	既設のトレンチ(1)長さ13m×幅2m×深さ10cm(2)長さ13m×幅2m×深さ10cm(3)長さ10m×幅2m×深さ10cmの2つのトレンチを入れ、その結果上層に変化はなく、遺構・遺物は検出されなかつた。
100	大沢通跡	02262	工事立会	白石市森山字愛敷56,56番5	宅地造成	平成12年8月30日	基礎工事中に立合い調査を実施。築堤の内、3箇所を調査した結果、(1)既設のトレンチ(1)長さ50cm×幅50cm×深さ10cmのトレンチを入れ、調査、その結果、既設と直角約90度のケント池が検出されたが、矢は、遺構・遺物は検出されなかつた。
101	人情道跡	02262	確認調査	白石市牛田大字131-1,135-2	用地造成	平成12年11月30日	(1)既長さ13m×幅2.1m×深さ10cm(2)長さ3.11m×幅2m×深さ10cmの2つのトレンチを入れ、調査、その結果上層に変化はなく、遺構・遺物は検出されなかつた。
102	小牛井家 通跡	02217	確認調査	白石市延岡字入63-3-5,63-7	住宅建設	平成12年12月15日	既設のトレンチ(1)長さ6m×幅1.5m×深さ10cm×幅5.8m以上、(2)の2つのトレンチを入れ、その結果上層に変化はなく、遺構・遺物は検出されなかつた。
103	唐辛子通跡 (30号地)	02005	確認調査	白石市西山字牛井沢山(2)5-2,35	五十嵐場改修	平成17年度	無届けT事による古墳の破壊。
104	大淵通跡	02262		白石市寺宇町68-4,74-12	道路整備	平成13年2月7日	既設のトレンチ(1)長さ2.5m×幅2m×深さ10cm×幅5.3m×深さ30~60cmのトレンチを入れ、その結果、既設と直角約90度のケント池が検出されたが、矢は、既設と直角約90度のケント池が検出されたが、矢は、遺構・遺物は検出されなかつた。
105	大道通跡	02262	T.事立会	白石市寺尾町70-4	街容改善	平成13年度	立会結果不明。
106	鶴巣山 通跡	02355	問い合わせ な	白石市大廣沢町1丁目鶴巣山108	黒柴原御物中間 施設整備	平成13年2月	上地の施設なし。
107	大沢通跡	02262	確認調査	白石市吉田大字51番	生宅造成	平成13年4月17日	(1)長さ40m×幅30cm×深さ5m×深さ60cm～1m10cm(2)長さ30m×幅1.5m×深さ3m×深さ65cmの2つのトレンチを入れ、調査、その結果、遺構調査(1)の2箇所のトレンチを入れ、調査、その結果、既設と直角約90度のケント池が検出されたが、矢は、既設と直角約90度のケント池が検出されたが、矢は、遺構・遺物は検出されなかつた。
108	人情道跡	02262	T.事立会	白石市吉田大字51番36-1地先～ 85-2地先	公共下水道事業 (大字一番井筒)	平成14年3月29日	既設工事中に上工事会調査が実施、既設の調査、既存水路へのT事であり、土層に変化はなく、遺構・遺物は検出されなかつた。
109	金森通跡	02375	T.事立会	白石市喜山字金森	施設改修	平成16年1月9日～ 2月28日	既設工事中に上工事会調査が実施、既設の調査、既存水路へのT事であり、土層に変化はなく、遺構・遺物は既存されなかつたため、既設を終了した。

No.	道路名	地図番号	担当内容	所 在 地	開工原因	開工期間	開 会 期 間
110	白石城跡	02197	T.事業立会	白石市長岡町27	白石高田内運動場解体	平成13年10月26日 11.11月17.11月 15.12月3日E	既設の大切断・敷地内・川辺整備・道路(狭き土手)撤去・排水 内済み溝・管・排水溝の除去等、マッシュフィニッシュ基礎路面 工事場に変化はなく、通構・通物等は撤去されなかった。
111	白石城跡	02197	T.事業立会	白石市長岡町65番地	益田原町公園施設工事	平成14年3月11日	荷物搬入及び集水側設置工事等に至るV.溝蓋を設置した結果、輪廻した結果 土壌に変化はなく、通構・通物等は撤去されなかった。(1)表 さかじm×幅さかじm×深さ3.0mの大きさ(2.2m×幅さ40cm×深さ34cm)
112	阿彌山紫 荘、瓦版 壁工事	02201 02126	T.事業立会	白石市篠岡町本瓦堀町・篠岡 長岡字屋場山	根本道路改良事業	平成13年度	右敷委の不承認により上立会を開催せず。
113	大通道路	02262	T.事業立会	白石市宇大津地内	水道販売設	平成14年3月14日、 3月15E.3月19日	NTTで構造物のための試験時に配管を設けた際、配管を設けた際に立会い・運営 を実施・係留した結果、土壌に変化はなく、通構・通物等は撤去 されなかった。(1)水道管設置工事・長さ3.5m×幅さ140 cm(NTTで構造物のための底高さ1.1m×幅さ75cm×深さ150cm) 既設のための新設工事・長さ1.0m×幅さ1.0m×深さ1.0m(NTTで 構造物のための新設工事・長さ1.0m×幅さ1.0m×深さ1.0m)
114	真立内 連絡	02430	T.事業立会	白石市宇大津内 総内	基盤構造改善事業	平成15年2月28日 ~3月6日	掘削下工事等に至るV.溝蓋を設置した結果、既設・既存水路内 の構造であり、土壌に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。(1)長さ345cm×幅さ30cm×深さ1.2m
115	佐内内 連絡	02430	T.事業立会	白石市宇大津内 総内	基盤構造改善事業	平成15年2月28日、 平成16年1月8日	掘削下工事等に至るV.溝蓋を設置した結果、既設・既存水路内 の構造であり、土壌に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。(1)長さ345cm×幅さ30cm×深さ1.2m
116	既設改 造工事	02418	確認調査	白石市篠岡町下打越町、篠岡町 新井作人、愛宕山・篠岡町	新設改 造地区	平成14年3月	立会結果は不明。
117	既立内 連絡	02430	確認調査	白石市宇大津北32	住宅建設	平成14年5月25日	既設改造成V.溝を設置した結果、既設・既存水路内 の構造であり、土壌に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。
118	既施 古跡探	02005	T.事業立会	白石市大沢尻落葉集寺跡 25.2.6	住宅建設	平成13年9月17日	既設改造成V.溝を設置した結果、既設・既存水路内 の構造であり、土壌に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。(1)長さ50cm×幅さ50cm×深さ50cm(2)長さ50cm×幅 さ20cm×深さ10cm以上、2本のトレンチを入れた結果、土 壌に変化はなく、通構・通物等は撤去されなかった。
119	既設改 造地区	02400	確認調査	白石市宇大津日丁目35	アパート新築工事	平成13年8月24日	(1)長さ30cm×幅さ20cm×深さ5cm(2)長さ50cm×幅 さ20cm×深さ10cm以上、2本のトレンチを入れた結果、土 壌に変化はなく、通構・通物等は撤去されなかった。
120	大通道路	02262	確認調査	白石市宇大津做瀬62-1	既設日駐場 施設	平成13年7月21日	既設改造成V.溝を設置した結果、既設・既存水路内 の構造であり、土壌に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。(1)長さ50cm×幅さ20cm×深さ5cm(2)長さ50cm×幅 さ20cm×深さ10cm以上、2本のトレンチを入れた結果、土 壌に変化はなく、通構・通物等は撤去されなかった。
121	大通道路	02262	確認調査	白石市宇大津寺北61-3 の一部	住宅建設	平成13年9月5日	(1)長さ50cm×幅さ10cm×深さ5cm(2)長さ80cm×幅 さ20cm×深さ10cm以上、2本のトレンチを入れた結果、土 壌に変化はなく、通構・通物等は撤去されなかった。
122	白石 金剛寺跡 探査	02400	確認調査	白石市宇大津町丁B36	住宅造成	平成13年10月29日	(1)長さ50cm×幅さ10cm×深さ5cm(2)長さ80cm×幅 さ20cm×深さ10cm以上、2本のトレンチを入れた結果、土 壌に変化はなく、通構・通物等は撤去されなかった。
123	白石 金剛寺跡 探査	02400	確認調査	白石市宇大津町丁B71	共同住宅新築工事 のため	平成14年9月19日	(1)長さ100cm×幅さ20cm×深さ25cm(2)長さ100cm×幅 さ20cm×深さ25cm(3)長さ90cm×幅さ20cm(4)長さ90cm×幅 さ20cm以上、2本のトレンチを入れた結果、土壌に変化は なく、通構・通物等は撤去されなかった。
124	碧里用 通路	02002	確認調査	白石市宇大津新築木工菅生門111号 15-17	金庫解体及び破 壊施設	平成14年6月14日 ~27日	(1)長さ30cm×幅さ10cm×深さ30cmと深さ40cmのトレンチを入 れた結果、既設・既存水路内に変形が見られ、既設・既存水 路内は既設工事となっていた。(2)長さ30cm×幅さ10cm×深 さ30cmと深さ40cmのトレンチを入れた結果、既設・既存水 路内は既設工事となっていた。
125	大約溝路	02262	確認調査	白石市宇大津一晩61-19	専用住宅地等入 居宅建設	平成13年10月26日	(1)長さ30cm×幅さ10cm×深さ30cmと深さ40cmのトレンチを入 れた結果、既設・既存水路内に変形が見られ、既設・既存水 路内は既設工事となっていた。(2)長さ30cm×幅さ10cm×深 さ30cmと深さ40cmのトレンチを入れた結果、既設・既存水 路内は既設工事となっていた。
126	JIAA 鉄跡	02138	確認調査	白石市宇大津字御室57番、 58番66号	住宅建設	平成13年12月27日	(1)長さ30cm×幅さ10cm×深さ30cmと深さ40cmのトレンチを入 れた結果、既設・既存水路内に変形が見られ、既設・既存水 路内は既設工事となっていた。
127	御船島 跡跡	02072	確認調査	白石市宇大津寺子北沢田松谷1	住宅建設	平成14年2月13日	既設改造成V.溝を設置した結果、既設・既存水路内 の構造であり、土壌に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。(1)長さ50cm×幅さ10cm×深さ20cm以上、2本のトレンチを入れた 結果、既設・既存水路内に変形が見られ、既設・既存水路内 は既設工事となっていた。(2)長さ50cm×幅さ10cm×深 さ20cm以上、2本のトレンチを入れた結果、既設・既存水 路内に変形が見られ、既設・既存水路内は既設工事とな っていた。
128	白石 金剛寺跡 探査	02262	確認調査	白石市宇大津町4丁II-34	住宅建設	平成14年4月23日	福島の轟のみ。
129	白石 金剛寺跡 探査	02400	確認調査	白石市宇大津町4丁II-34	住宅建設	平成14年4月23日	(1)長さ30cm×幅さ10cm×深さ30cmと深さ40cmのトレンチを入 れた結果、既設・既存水路内に変形が見られ、既設・既存水 路内は既設工事となっていた。(2)長さ30cm×幅さ10cm×深 さ30cmと深さ40cmのトレンチを入れた結果、既設・既存水 路内に変形が見られ、既設・既存水路内は既設工事とな っていた。
130	白石 金剛寺跡 探査	02400	確認調査	白石市宇大津町4丁II-63	サウナ建設	平成14年4月23日	(1)長さ30cm×幅さ10cm×深さ30cmと深さ40cmのトレンチを入 れた結果、既設・既存水路内に変形が見られ、既設・既存水 路内は既設工事となっていた。
131	明神通路	02117	確認調査	白石市宇大津新舎寺4丁明神社 27.1.28.30	住宅建設	平成14年5月8日	(1)長さ50cm×幅さ10cm×深さ30cm以上、2本のトレンチを入れた 結果、既設・既存水路内に変形が見られ、既設・既存水路内 は既設工事となっていた。
132	大通道路	02262	確認調査	白石市宇大津一晩61-1	住宅建設	平成14年4月6日	(1)長さ50cm×幅さ10cm×深さ30cm以上、2本のトレンチを入れた 結果、既設・既存水路内に変形が見られ、既設・既存水路内 は既設工事となっていた。
133	木幡通路	02121	T.事業立会	白石市宇大津121-2.128-7ほか	住宅建設	平成14年7月1日	(1)既設改造成V.溝を設置した結果、既設・既存水路内 の構造であり、土壌に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。(2)既設改造成V.溝を設置した結果、既設・既存水 路内に変化はなく、通構・通物等は撤去されなかった。
134	北無从作 通路	02009	確認調査	白石市宇大津北無作11-2	住宅建設	平成14年8月2日	(1)長さ50cm×幅さ10cm×深さ30cmと深さ40cmのトレンチを入 れた結果、既設・既存水路内に変形が見られ、既設・既存水 路内は既設工事となっていた。
135	久保 通路	02278	確認調査	白石市宇大津久保7-1	住宅建設	平成14年8月1日	(1)長さ50cm×幅さ10cm×深さ30cmと深さ40cmのトレンチを入 れた結果、既設・既存水路内に変化はなく、通構・通物等は撤 去されなかった。
136	篠塚山翻路	02209	確認調査	白石市宇大津篠塚山別10-32	既石山翻路	平成15年度	(1)既設改造成V.溝を設置した結果、既設・既存水路内に 変形が見られ、既設・既存水路内は既設工事となっていた。
137	大通道通	02262	確認調査	白石市宇大津134番1	歯科診療所新築	平成14年11月19日 ~21日	(1)長さ60cm×幅さ60cm×深さ10cm以上、2本のトレンチを入れ た結果、既設・既存水路内に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。(2)既設改造成V.溝を設置した結果、既設・既存水 路内に変化はなく、通構・通物等は撤去されなかった。
138	上古野 通路	02310	確認調査	白石市宇大津谷子上古野50	住宅建設	平成14年11月17日	(1)長さ60cm×幅さ60cm×深さ10cm以上、2本のトレンチを入れ た結果、既設・既存水路内に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。
139	白石洋 渡路	02132	確認調査	白石市宇大津二丁B53	住宅建設	平成14年12月5日	(1)長さ60cm×幅さ60cm×深さ10cm以上、2本のトレンチを入れ た結果、既設・既存水路内に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。
140	通谷段 通路	02250	確認調査	白石市宇大津段平字平屋敷55-2, 18-1601	住宅建設	平成14年12月5日	(1)長さ60cm×幅さ60cm×深さ10cm以上、2本のトレンチを入れ た結果、既設・既存水路内に変化はなく、通構・通物等は撤去され なかった。

報告書抄録

ふりがな	しないいせきはっくつちょうさほうこくしうご							
書名	市内遺跡発掘調査報告書5							
副書名								
卷次								
シリーズ名	白石市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第38集							
編著者名	日下和寿、櫻井和人							
編集機関	白石市教育委員会							
所在地	〒989-0206 宮城県白石市字寺屋敷前25番地6 TEL:0224(22)1343							
発行年月日	西暦2010年7月16日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °°'	東経 °°'	調査期間	発掘調査 面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番 号					
称宣内遺跡	白石市字称宣内 99-6ほか	04206	02430	38° 00' 40"	140° 37' 37"	20090414～ 20090502	90.00	個人住宅 建設
大畑遺跡	白石市字東大畑 46-1、46-2ほか	04206	02262	38° 05' 35"	140° 37' 47"	20091113	20.34	住宅建 設、宅地 造成
志在家遺跡	白石市大鷹沢三沢 字前輪10-4ほか	04206	02359	37° 58' 56"	140° 38' 15"	20090609～ 20090803	428.30	資材置場 建設
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
称宣内遺跡	散布地	平安	竪穴住居跡	竪穴状遺構、ピット	土師器、須恵器、土製支脚	鉄器、鐵滓、近世陶磁器、磨石	墨書き器が出土した。竪穴住居跡2棟、竪穴状遺構1基、ピット1基が発見された。	
大畑遺跡	散布地・ 官衙	古代	溝跡		土師器		東西に延びる溝が発見された。	
志在家遺跡	散布地	古墳、 古代、 中世	竪穴住居跡	ピット	土師器、埴輪、剥片	中世陶器、錢貨、近世陶磁器	円筒埴輪片が出土した。竪穴住居跡6棟、ピット35基が発見された。	
要約	称宣内遺跡では9世紀代の集落の一部が確認された。							
	大畑遺跡では、時期不明の溝跡等が確認された。							
	志在家遺跡では土師器、埴輪、中世陶器、竪穴住居跡、多数のピットが確認され、古墳時代～中世の集落であることが判明した。							



1. SI05 完掘状況（西から）



2. SI05 土層断面（西から）



3. SI06 完掘状況（西から）



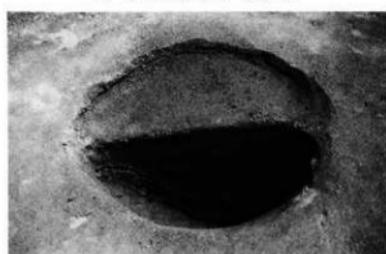
4. SI06 土層断面（北西から）



5. SX01 完掘状況（南から）



6. SX01 土層断面（南から）

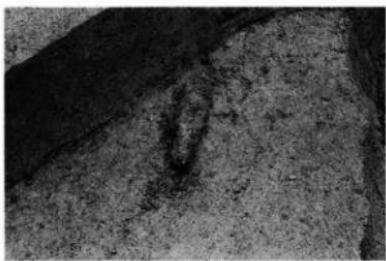


7. ピット土層断面（西から）

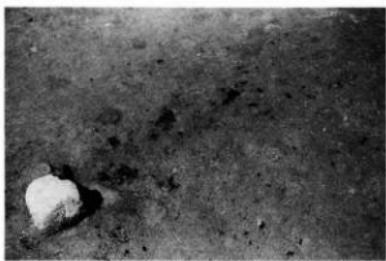


8. SI05 北側壁セクション（南から）

写真図版 1 祀室内遺跡



1. SI05 鉄器出土状況（第7図2、北から）



2. SX01 南西区 炭化物出土状況（南から）



3. 志在家遺跡遠景（北から）



4. T6 SI3周辺（南から）



5. T6 P9周辺（西から）



6. T7 P3周辺（西から）



7. T10 SI4（北から）



8. 地点② T1（西から）

写真図版2 秤室内遺跡（1、2）、志在家遺跡（3～7）、大烟遺跡（8）



6-7



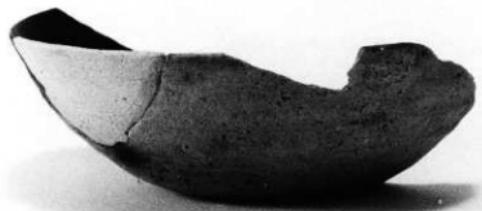
6-5



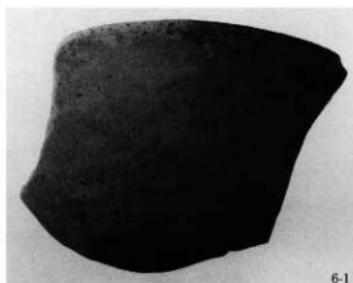
6-12

写真中の番号は本文中の
遺物図版番号と対応する。

写真図版3 墓室内遺跡出土遺物（1）



6-6



6-1



铁滓



6-9



6-4

写真図版 4 補室内遺跡出土遺物 (2)



6-6底面



7-1



7-2



7-3



7-4



22-13



23-14



23-8



23-5



23-12



22-12

写真図版5 案内遺跡出土遺物(3) ほか



22-4~6



22-14



22-14底面



22-10

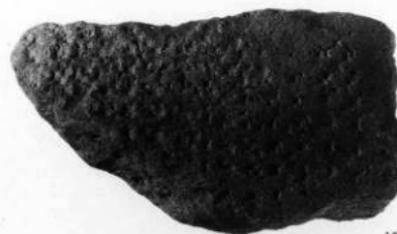


22-9



22-9

写真図版 6 志在家遺跡出土遺物ほか



15-1



15-1



15-3



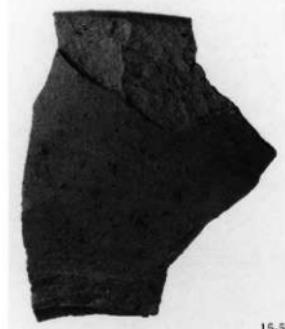
15-4



15-4



15-3



15-5



15-12

写真図版 7 大烟遺跡等出土遺物

白石市文化財調査報告書 第38集
市内遺跡発掘調査報告書5

平成22年7月12日印刷

平成22年7月16日発行

編集・発行 白石市教育委員会
〒989-0206 宮城県白石市宇寺屋敷前25番地6
電話:0224(22)1343

印 刷 株式会社佐々木印刷所
〒983-0035 宮城県仙台市宮城野区Hの出町2丁目2番16号
電話:022(236)1281
